

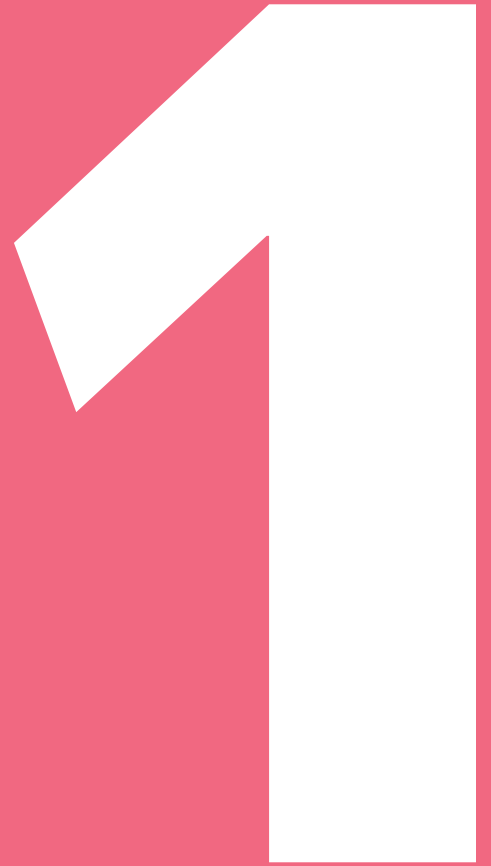
The background features a white central area with several colorful curved shapes and dots. At the top, there are green, blue, and dark blue curved shapes. In the middle, there are three dots: pink, orange, and yellow. At the bottom, there are blue, green, yellow, orange, and pink curved shapes.

2017（H29）年度北海道新聞社会福祉振興基金一般公募助成事業
南富良野町災害ボランティアセンター活動記録集
2018年3月

目次

1 はじめに	1
2 2016 年台風第 10 号による被害について	5
3 南富良野町災害ボランティアセンター	
1 発災から開設に至るまで -----	14
2 南富良野町災害ボランティアセンター関係図 -----	16
3 活動場所 -----	18
4 ボランティア活動の内容について	
(1) ボランティアセンターの一日	19
(2) ボランティア活動者の受付から活動までの流れ	20
(3) ボランティア活動の状況	21
(4) 活動内容	23
5 ボランティアセンターの支え手 -----	31
4 災害ボランティアセンター閉所後の動き	43
5 メッセージ	49
6 参考資料	
1 新聞報道（北海道新聞） -----	58
2 ボラセン新聞 -----	62
3 VC 様式集 -----	68
7 発行に寄せて	73





はじめに

災害ボランティア活動記録集の発刊にあたって

南富良野町長

池 部 彰



平成 28 (2016) 年 8 月、台風第 10 号の接近に伴う大雨により、南富良野町では、空知川の堤防が決壊し、市街地の 3 分の 1 が浸水したほか、一般住宅をはじめ公共施設や道路、橋梁、商業施設などの損壊または床上・床下浸水、農地の流失など、我が町では過去に例のない大きな災害に見舞われました。あらためて自然の驚異を感じさせられ、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

我が町では、幸いにも一人の死傷者を出すことなく避難することができましたことは、被害の発生が夜間であったにも関わらず、消防団や建設業協会、自治会、社会福祉法人、民生委員など、多くの方々が被害防止や避難誘導に懸命に携わっていただいた賜物であり、真に“南富良野町の奇跡”でありました。

また、災害発生の翌日には、自らも被災している方もいる中、町民有志と町内の認定 NPO 法人 どんころ野外学校、南富良野町社会福祉協議会による「南富良野町災害ボランティアセンター」が設立され、いち早くボランティアの募集と被災者へのニーズ調査などの活動をはじめていただきました。

このほか、センターの設立には、全国社会福祉協議会や北海道社会福祉協議会、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議、全国災害ボランティア支援団体ネットワークなどから、センター運営や災害復旧における様々な制度活用のご助言をいただいたほか、全国から心温まる激励のお言葉やたくさんの義援金を頂戴し、道内市町村社会福祉協議会からも人材派遣や資機材の提供、日本赤十字奉仕団や全国の支援団体から多くの支援物資の提供をいただき、全国各地から延べ 5,982 人ものボランティアの皆さんが、泥出しや清掃、引越し作業のために駆け付けてくださいました。

こうした全国からご支援をいただいたお陰で復旧作業が進み、多くの町民に希望を与えてくださり、温かい思いやりの心と“絆”の強さに感激したところであり、深く感謝申し上げます。

発刊されるこの活動記録集が、本町に寄せられたご支援やご協力の姿を多くの方々に知っていただく媒体となり、災害対応能力の向上と防災意識の高まりや福祉に対する理解が深まり、ボランティア活動が一層広がることを願うところです。

活動記録集を作成された南富良野町社会福祉協議会と一般社団法人 Wellbe Design のご苦勞に感謝いたしますとともに関係者皆様のご健勝をお祈り申し上げ、発刊にあたっての言葉とさせていただきます。

ボランティア記録集発刊に寄せて

2016年8月31日発生台風第10号被害に想う

社会福祉法人 南富良野町社会福祉協議会
会長

森 敏 範



8月17日台風第7号で十勝北部に大雨、釧路に強風被害。8月21日台風第11号は北見地方に大雨、堤防越水被害。8月23日台風第9号による日高地方と旭川・深川方面の河川が氾濫し水田、畑が冠水する被害が発生。

そして、8月30日未明台風第10号の大雨によって「南富良野町」は今までに経験したことのない大規模な災害に見舞われることとなってしまいました。

町域を貫流する北海道管理河川「空知川」の最上流部地域に29日から31日未明までに、約500ミリの集中豪雨が降り続き町内落合・幾寅地区に想像もできない河川の増水堤防決壊が起こり、甚大な洪水被害をもたらしました。

昨今の異常気象で「南富良野町」が経験したことは、もはや特別でも想定外の事でもなく、今やどこでも起こり得ることだと認識しておかなければなりません。

私たちは、この災害で多くのものを失いましたがその一方では人とのつながりや地域の助け合いが大切であり、この状況でより強まったことを実感しました。特に近所の人たちが支えあう姿がシッカリ根付いていることを確認することが出来ました。

そして何よりも、9月1日朝には町民有志の方による「なんぷボランティアセンター」が立ち上がり近隣の高校生と泥出し作業をしていることを後ほど知り、その対応の早さに驚いたところです。

その後、私ども社協と前記の有志ボランティア団体が合流した「南富良野町災害ボランティアセンター」を開設し復旧活動の第一歩がスタートしました。

しかし、立ち上げてもボランティアセンターの運営ノウハウは誰も持ち合わせておらず、全国社協、北海道社協から職員の派遣を早々に実施していただ

き、混乱した状況を改善しスムーズな手配をしていただきました。

このことにより、被災者からのニーズも正確に受け取ることが出来、迅速に対応できることとなりました。

今回の災害に対して、全国から復旧に向けたボランティアの方々が駆けつけてくださいましたことにあらためて感謝とお礼を申し上げます。

特に、札幌から連日ボランティアバスで駆けつけてくださった方々や、大学や高校からバスを出して来てくれた学生の皆さんには、床下の泥出しのほか農家の畑にたまった泥の搬出を担っていただきました。

また、以前この地で教壇に立っていた先生方が生徒とともに何度もボランティアに参加を頂くなど多くの人に支えられ、道半ばとはいえここまで復興することが出来ました。

災害時の状況を後々まで伝える方法は種々あることと思いますが、災害状況そのものを記録することが多く、このように災害ボランティア活動とその運営状況に特化した記録集はあまり例がないように思います。

災害時被災者に寄り添った復旧・復興の最大の力はマンパワーにあると思います。

このパワーを最大限に引き出すためのシステムがボランティアセンターの運営力にあると感じています。その指針になる記録集の活用を切に願うところです。

今般の災害ボランティア記録集発刊に際し、お礼を伝えることが出来なかった全ての皆様に改めて感謝を申しあげ、発刊に寄せてのご挨拶とさせていただきます。

2

2016年台風第10号
による被害について

地域概況

南富良野町は、北海道のほぼ中央に位置し、2017年9月末現在の人口は2,584人、世帯数は1,424戸の農業を基幹産業とする町である。

北は富良野市、南は占冠村、東は新得町、西は夕張市に接している。北東には大雪山系の十勝岳、南は日高山脈、西は芦別岳、夕張岳を主峰とする夕張山脈が南北に縦走するなど四方が山に囲まれ、東西に貫流する空知川に沿って北落合、落合、幾寅、東鹿越、金山、下金山の6つの集落が形成されている。

町総面積665.54 km²の約9割が森林地帯で、町の中央には昭和42年に洪水調整や灌漑用水、発電などの多目的機能を有する金山ダムの建設によって堰き止められた人造湖「かなやま湖」がある。

天気概況

2016年8月29日9時に八丈島の南南東約350キロにあった台風第10号は、30日9時には、強い勢力を保ったまま銚子沖を北北西へ進み、12時には風速15メートル以上の領域を広げて大型となり東北地方に接近、18時前に岩手県大船渡市付近に上陸した。台風第10号はその後も北北西に進み、21時には函館市南西の日本海に抜けて31日0時に温帯低気圧に変わった。台風第10号の周辺では、広い範囲で非常に強い風と大しけ、大雨が続いた。

北海道地方は暖かく湿った空気の流入により、29日から太平洋側東部を中心に雨が続き、31日までの総雨量は、特に日高山脈周辺で多く300ミリを超える大雨となった。

台風の影響で、十勝川水系札内川が氾濫し、「はん濫発生情報」が発表された。

また、台風接近時には日本海側南部や太平洋側西部を中心に、会場で猛烈な東よりの風が吹き、函館空港で最大瞬間風速36.5メートルを観測するなど暴風や猛烈なしけとなった。

8月17日に第7号、21日に第11号、23日に第9号が北海道に相次いで上陸し、記録的な大雨をもたらせた。それからおよそ一週間後の台風第10号の接近となった。なお、台風第10号は東北地方の太平洋側への上陸は1951年の統計開始以来初めてとなった。

出典：札幌管区気象台ホームページ 平成28年台風第10号に関する気象速報より一部抜粋
(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/tenki/yohou/saigai/pdf/KishoH280829-0831.pdf>)

南富良野町では、ダム上流域に位置する幾寅・落合地区が河川氾濫に伴い大規模な被害を受けた。

1 降雨量

● 台風第 10 号による総雨量

2016 年 8 月 29 日 00 時から 9 月 1 日 00 時 (3 日間)

観測所: 南富良野町幾寅 (気象庁) 185.3 mm

(※ 8 月 31 日 04 時 ~ 9 月 1 日 00 時の降水量は欠量)

● 累加雨量 (南富良野町調べ)

串内観測所による、28 日の降り始め (21 時) から 515mm (52 時間連続降雨)

2 被害状況

(2016 年 11 月 24 日時点 南富良野町調べ)

(1) 住宅等被害

① 専用住宅 (戸)

区分	一部損壊	床上浸水	床下浸水	その他	合計
集合住宅	4	62	51	0	117
持家	6	28	54	0	88
農家世帯	2	4	10	0	16
合計	12	94	115	0	221

② 地域別 (戸)

区分	一部損壊	床上浸水	床下浸水	その他	合計
落合	6	6	12	0	24
幾寅	6	88	103	0	197

③ 非住宅被害 (戸)

区分	物置・倉庫全壊	物置・倉庫半壊	車庫全壊	車庫半壊	合計
集合住宅	19	3	10	14	46
持家	25	8	18	6	57
農家世帯	7	12	0	0	19
合計	51	23	28	20	122

④ 車両被害

普通車 108 台、軽自動車 40 台 合計 148 台

(2) 農林業被害

- ① 農業被害 農作物 276.3 ヘクタール (主な作物被害: 人参、種子馬鈴薯、スイートコーン)
- ② 農地被害 約 110 ヘクタール (流亡・土砂堆積・表土流失他)
内、災害復旧事業等 約 86 ヘクタール
- ③ 柵被害 約 14 km (倒壊など)
- ④ 農業用排水路 2 箇所 323m

(3) 土木・建築・水道施設等被害

- ① 土木施設: 道路施設 13 箇所 被災延長 約 3.3 km
橋梁施設 3 箇所 被災延長 259 m
普通河川 1 箇所 被災延長 173 m
- ② 建設関係: 公営住宅等 99 戸 その他町有施設 9 箇所
- ③ 衛生関係: ゴミ処理等 1,820 トン
- ④ 家電リサイクル: 422 台
- ⑤ 水道施設: 幾寅地区・落合地区簡易水道施設
- ⑥ 公共下水道施設: 1 施設
- ⑦ その他公共施設: 7 施設

(4) 商業施設: 40 施設

3 災害対策本部

2016 年 8 月 30 日 13 時 00 分に町災害対策連絡協議会を設置 (防災計画)

→災害発生防止の警戒態勢の確認及び警戒行動の開始。

2016 年 8 月 30 日 19 時 00 分災害対策本部に格上げ (防災計画)

幾寅栄町西側 40 世帯避難指示

4 住民避難

2016年8月30日14時00分に各地区避難所開設（4地区5カ所）

→避難所最大避難者数490名、町内全域を自主避難地区とした。2016年9月末日現在。

	8月30日	8月31日	9月1日	9月2日	9月3日	9月4日	9月5日	9月6日	9月7日	9月8日	9月9日	9月10日	合計
落合地区	64	87	87	20	18	18	16	13	13	12	10	10	368
幾寅地区	28	173	253	103	51	63	70	10	10	9	4	0	774
金山地区		52											52
下金山地区		73											73
合計	92	385	340	123	69	81	86	23	23	21	14	10	1267



5 被害の様子

写真提供 撮影：太田達也氏（写真家）



写真提供 南富良野町役場



3

南富良野町 災害ボランティアセンター

1 発災から開設に至るまで

災害発生後、9月1日からの動き。

一般町民の立ち上げの動きから関係機関が携わり、協同で開設された。

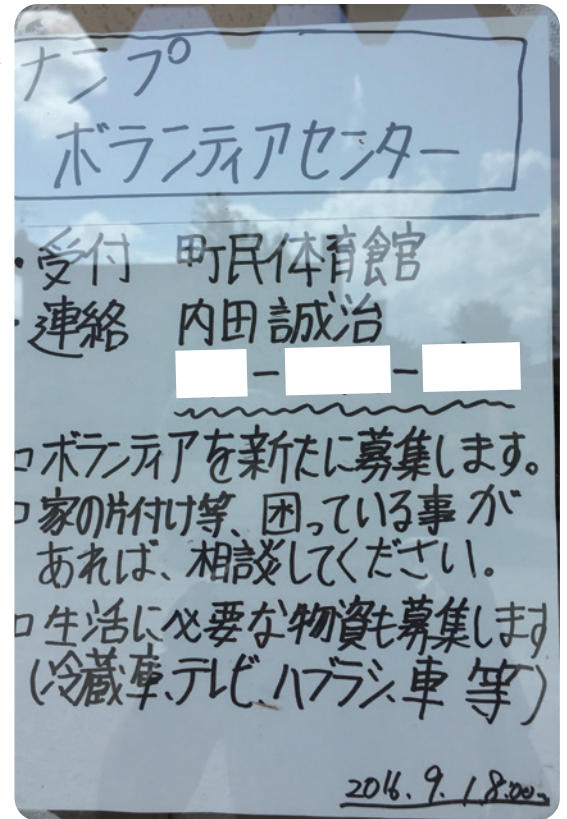
日時	内容	ボランティアセンターの動き
9月1日 6:00～	小学校（校長、教頭）に、VC の立ち上げや場所の確保のため体育館使用などを相談。（被災住民の内田氏が VC の場所探しのため行動開始） 役場総務課へ、そして町長に相談。（内田氏）	
7:00～	町民体育館を開場、役場から資材提供。	
8:00～	“なんぶVC” を内田氏個人の SNS アカウントにて立ち上げを周知。 “なんぶVC” として、高校生らと泥だしを 1 件対応。 観光協会小林氏、ジージーピー株式会社藤崎氏合流。周知チラシ、活動記録フォーム等作成。 どんころ野外学校+内田氏+社協伊賀氏で協議 【協議案】「内田氏 + 支援 NPO」と「社協」の別々で VC 立ち上げ別運営する話もあったが、支援（資材・資金・連携）の確保を合理化に進める・混乱を防止する為、立ち上げた内田氏に社協が合流する案で確定。	
11:00～	住民へチラシを配布。 地元の中高生やトママ（占冠村）の住民など 24 名ぐらいで、ボランティア活動を実施。	
12:00～	災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援 P）より、先遣隊到着。 町民体育館で VC 設置サポートを行う。 （人、モノ、資金、支援の可能性を伝達） NPO 法人にいがた災害ボランティアネットワーク（NSVN）に対し資機材の提供を求める。 ・社会福祉協議会（南富良野町、道社協上川地区事務所、全道、全国） ・役場 ・認定 NPO 法人どんころ野外学校 ・町民有志 ・災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援 P） ・全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD） 関係者で協議。	“南富良野町災害ボランティアセンター” 開設
9月2日 8:00～	災害 VC 運営スタッフ集合。 （地域おこし協力隊服部氏、有志西村氏、管内市町村社協合流）	ボランティア受け入れ開始
9月3日	北海道共同募金会 天羽事務局長が来町。 （運営資金確保のため、災害等準備金の申請手続き開始）	災害準備金の申請 南富良野町災害ボランティアセンター Facebook ページ開設
9月4日 14:00～	NPO 法人にいがた災害ボランティアネットワーク（NSVN）から活動資機材が届く。	

9月1日8:00に手作りで作成した周知チラシ

9月1日12:30に災害ボランティアセンター開設に向けた関係者の協議

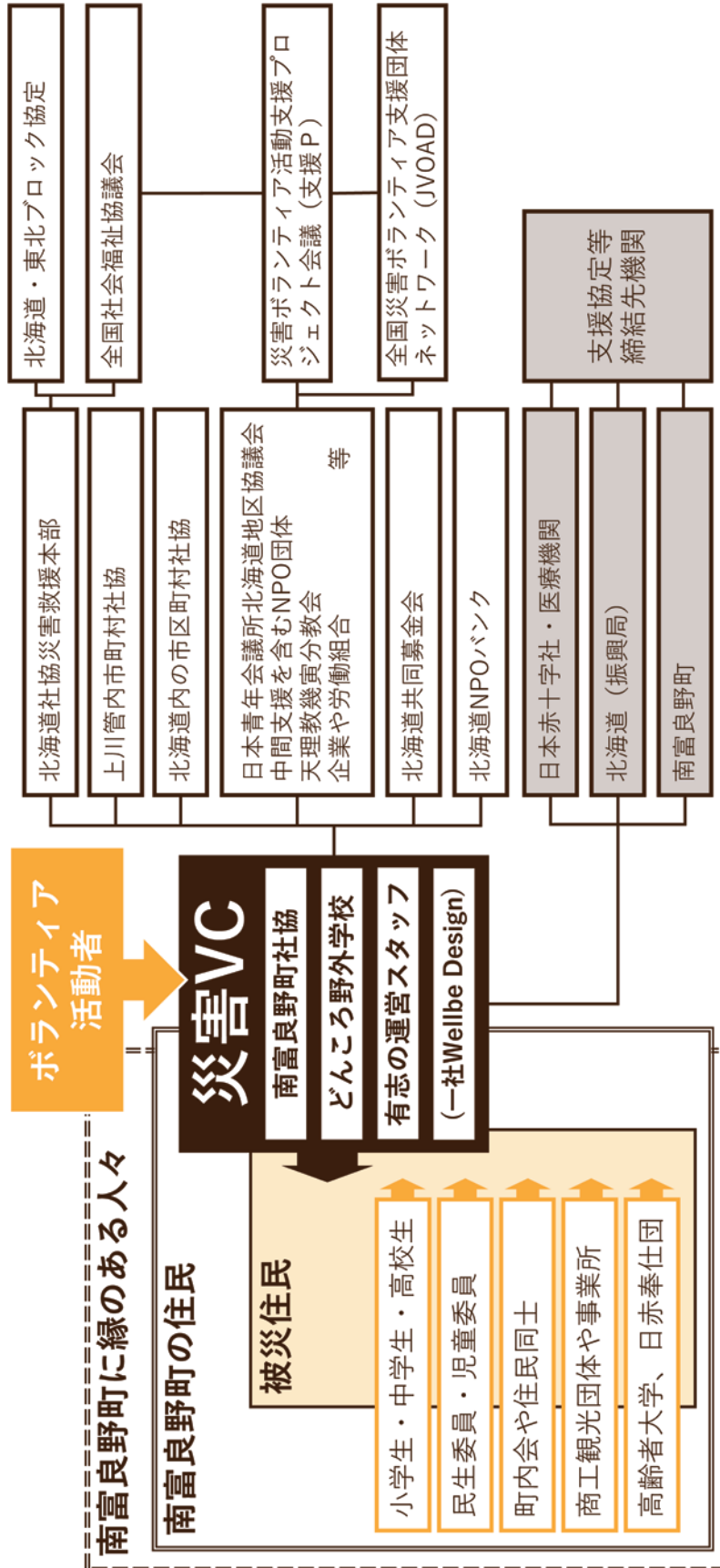
参加者

- ・南富良野町社会福祉協議会
- ・南富良野町役場
- ・認定NPO法人どんころ野外学校
- ・南富良野町の有志（住民・高校生・大学生）
- ・全国社会福祉協議会
- ・北海道社会福祉協議会
- ・北海道社会福祉協議会上川地区事務所
- ・全国ボランティア支援団体ネットワーク
- ・災害ボランティア活動支援プロジェクト会議

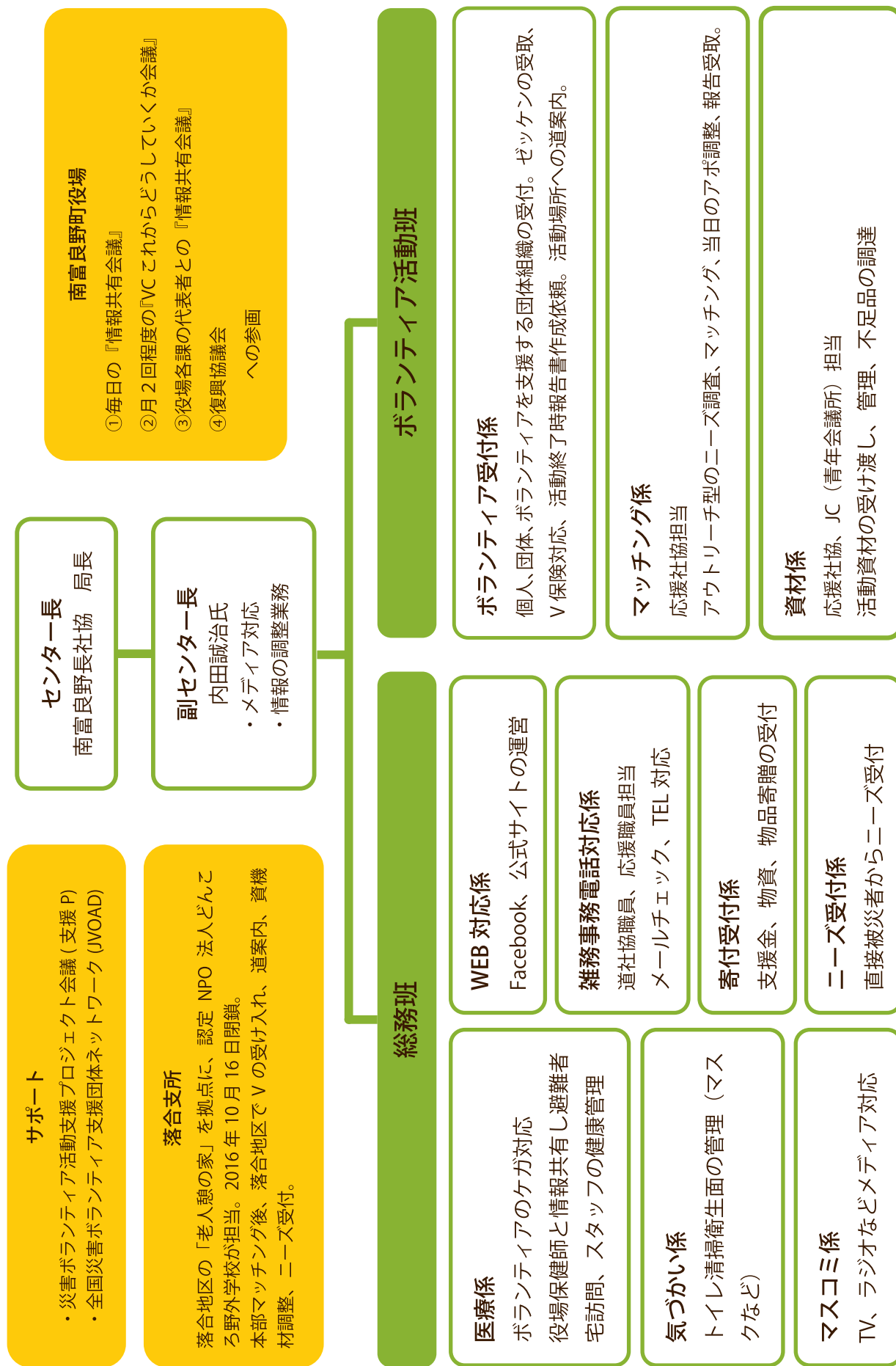


2 南富良野町災害ボランティアセンター関係図

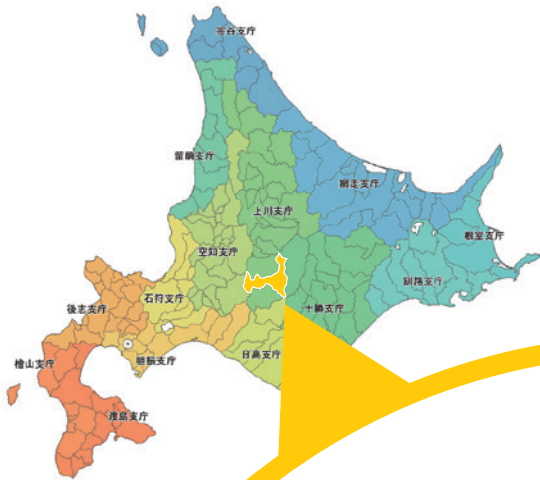
(1) 組織図



(2) 班構成図



3 活動場所



かなやま湖
流入した災害ゴミや流木の
除去活動を実施。



幾寅

被災した 197 世帯を中心とした生活環境整備を実施。家屋及び家屋周辺環境・事業所・道路・側溝・公園に堆積した汚泥や漂着物の除去活動。

落合

被災した 24 世帯を中心とした生活環境整備を実施。家屋及び家屋周辺環境・道路・橋・公園に堆積した汚泥や漂着物の除去活動。どんころ野外学校の施設環境整備。

4 ボランティア活動の内容について

(1) ボランティアセンターの一日

時刻	テーマ	内容
7:00		運営スタッフ集合、オリエンテーション
8:00 ~ 8:30	作業準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア受付開始 ・朝礼、通達、班分け、マッチング（作業割、3～5人一組のチーム、リーダーを選任）、体操
9:00 ~ 11:30	午前作業	<ul style="list-style-type: none"> ・こまめに休憩を取り、水分補給 ・床下作業などは「ヘルメット」「ゴーグル」「マスク」「耐水の合羽」を着用 ・道具類の貸出は管理表記入
11:30 ~ 13:00	昼休憩	<ul style="list-style-type: none"> ・チームごとに休憩場所を話し合い、適宜休憩 ※時々有志による支援があることもあったが、基本的にはボランティア参加者自身で昼食を用意
13:00 ~ 15:00	午後作業	<ul style="list-style-type: none"> ・午前作業同様 ・こまめに休憩をとり、水分補給
16:00	作業報告	<ul style="list-style-type: none"> ・チームごとに活動のふりかえりを実施（作業進捗他） ・資機材の返却を行い、リーダーは活動報告を行う ・報告書記入後、ボランティアは各自解散
17:00 ~ 17:30	打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> ・運営スタッフ各班ミーティング 総務班、ボランティア活動班ごとに実施 ・参加者入浴：かなやま湖保養センター 午前9:00～夜21:00（21:30閉館）当面無料 ・運営スタッフ、全体ミーティング
18:30		翌日の準備
20:30		終了

(2) ボランティア活動者の受付から活動までの流れ



(3) ボランティア活動の状況

① ボランティア活動件数（延べ）

ア. 生活環境整備等

実依頼件数 187 件

ボランティア依頼総数 446 件

内訳、完了 437 件 活動継続中 0 件 対応不能 9 件

延べ活動回数 823 回 ※写真洗浄を除く

イ. 思い出の品救出

依頼件数 11 件 活動期間 9/15 ~ 5/31 *全件完了

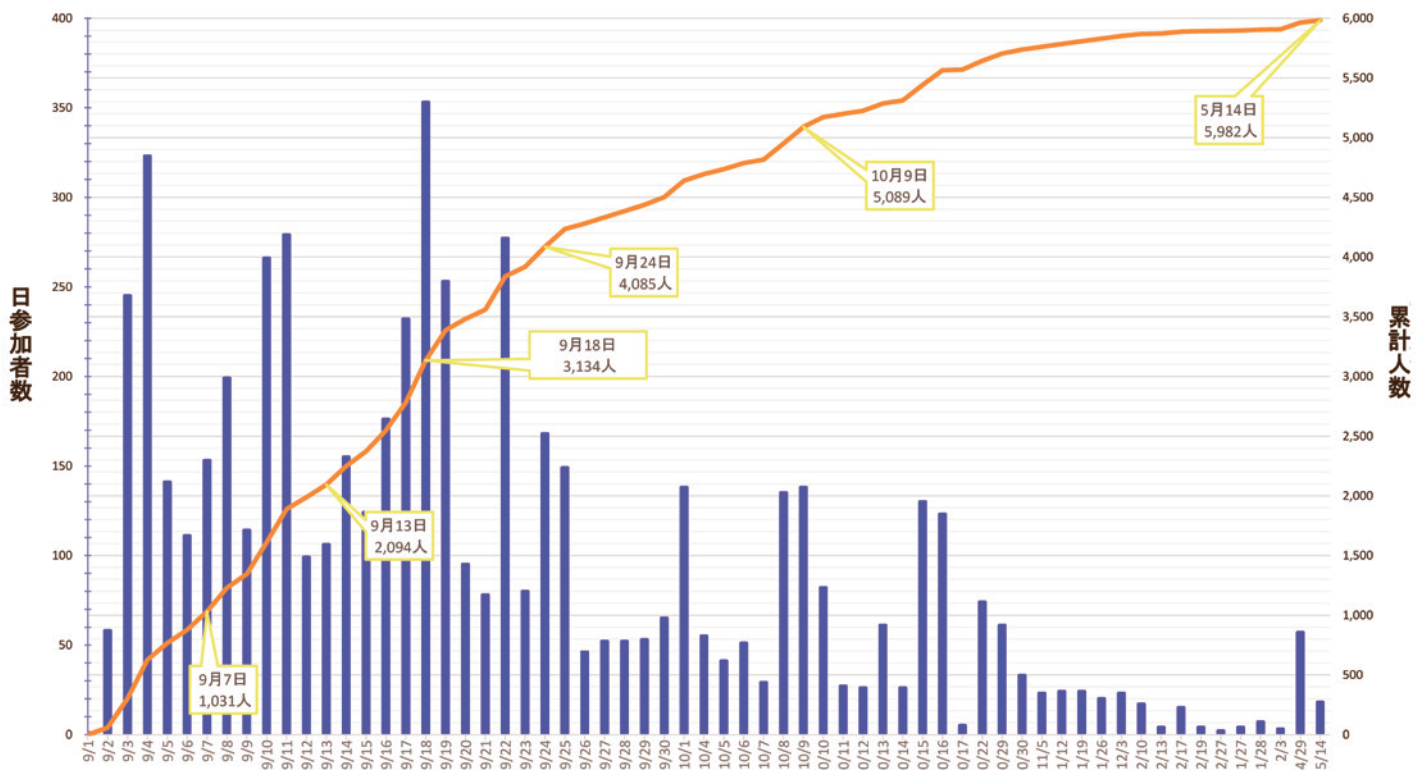
② ボランティア活動者数（延べ）

ボランティア活動者 5,982 名。

最高年齢は 81 歳、最少年齢は 5 歳と幅広い年齢層の方の参加があった。

参加者のリピーター率も 40% (個人参加者) を超え、週末のたびに通ってくださる方もいた。

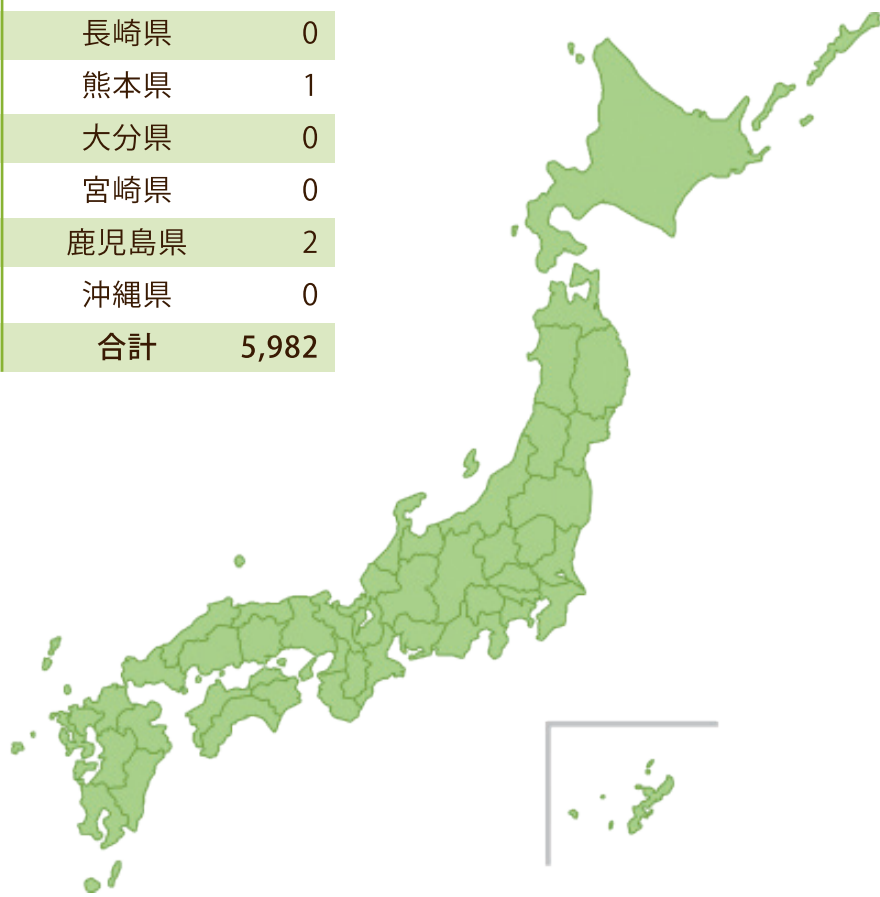
災害ボランティア活動者数



③ ボランティア活動者の居住地

都道府県名	人数	都道府県名	人数
北海道	5,704	滋賀県	2
青森県	1	京都府	8
岩手県	2	大阪府	15
宮城県	1	兵庫県	3
秋田県	6	奈良県	5
山形県	3	和歌山県	0
福島県	3	鳥取県	0
茨城県	6	島根県	0
栃木県	1	岡山県	0
群馬県	2	広島県	3
埼玉県	29	山口県	0
千葉県	34	徳島県	0
東京都	56	香川県	0
神奈川県	44	愛媛県	0
新潟県	4	高知県	0
富山県	0	福岡県	3
石川県	1	佐賀県	0
福井県	0	長崎県	0
山梨県	6	熊本県	1
長野県	3	大分県	0
岐阜県	3	宮崎県	0
静岡県	17	鹿児島県	2
愛知県	10	沖縄県	0
三重県	4	合計	5,982

振興局別	人数
上川総合振興局	2,668
空知総合振興局	475
石狩振興局	1,850
胆振総合振興局	88
後志総合振興局	113
十勝総合振興局	161
釧路総合振興局	67
根室振興局	27
日高振興局	26
檜山振興局	2
渡島総合振興局	30
留萌振興局	27
オホーツク総合振興局	44
宗谷総合振興局	7
※道内住所不明者	119
合計	5,704



(4) 活動内容

① 生活環境整備等

床上・床下浸水被害のあった世帯に対し、自宅での生活が再開できるように居住環境を整備する活動を行った。



1 家具の運び出し



2-① 汚泥・汚水除去【床板を剥がせる場合】

可能な限り電気工具は使用せず、バールなどを用いて丁寧に床板を剥ぎ、床下の汚泥を除去する。



2-② 汚泥・汚水除去【床板をはがせない場合】

床下改口や基礎のない住宅では屋外から床下に入り、床下の汚泥を除去した。生活を継続しながら作業する場合もあるため、ブルーシート等で養生するなどの配慮をした。



2-③ 汚泥・汚水除去【住宅地下（室）】

幾寅地区の住宅では地下倉庫を持つ家が多く、地下に溜まった汚水や汚泥を除去した。ポンプは泥が詰まり使用できず、バケツリレーでの除去も作業スペースの狭さにより困難を極めた。また、地下倉庫の天井部（1階の床下）の浸水被害は見た目では確認が困難であり、天井を剥がしてみると被害の様子が確認できた（写真参照）

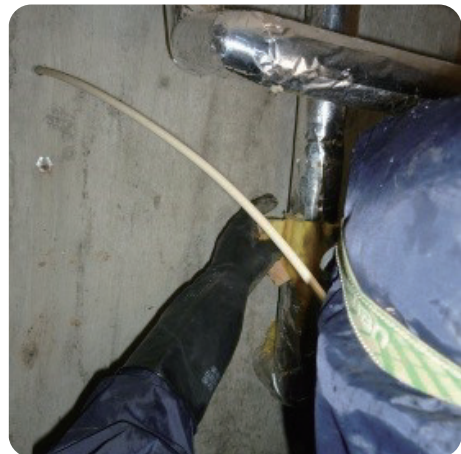


2-④ 汚泥④・汚水除去【壁面】

床下浸水被害の場合でも断熱材を通じた壁面への被害が生じていた。ボランティア活動者の中で大工や建設業の方がいた場合、依頼者と相談の上、浸水した壁面を剥がす作業を行った。

2-⑤ 汚泥出し【床下配管】

床下部の配管に巻かれている断熱材等が濡れている場合には腐食や凍結、悪臭につながるため汚泥とともに除去した。





3 床下等の乾燥

床下や地下部分の乾燥には扇風機やサーキュレーター、ジェットヒーターを使用した。高気密住宅では床下換気口のない住宅もあったため、乾燥には時間を要した。

4 床下等の消毒

消石灰の散布や塩化ベンザルコニウムの噴霧による消毒を行った。消石灰の消毒効果は専門家の間でも賛否が分かれているほか、取り扱い方法により炎症を起こしたという報告もあった。



5 家財の搬入・ 引っ越し作業

工務店などによる床板や断熱改修工事等の後、家財を搬入した。工事中自宅での生活ができない被災者は町が用意した宿泊所や住宅または親戚や知人宅での仮住まいからの引っ越しが行われた。

② 地域の活動

浸水被害のあった地域では、被災世帯の生活用品や人参・ジャガイモなどの農作物、流木などが漂着したため、それらを除去し環境を整備する活動を行った。



1 林の漂流物撤去

住宅に隣接する林の中に漂着した被災ゴミの中には、490L 灯油タンクや中に物が入ったままの物置などもあり、住民とボランティアが合同で作業にあたった。

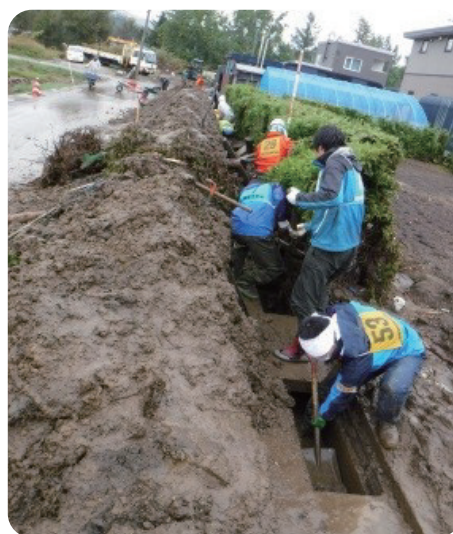


2 河川敷、橋の漂流物撤去

橋の欄干や河川敷には大小さまざまな流木や被災ゴミが漂着した。

3 側溝

側溝の中は、汚泥で塞がっており機能を果たせない状態になっていた。降雨時の2次災害が想定されたため、専用工具を用いて蓋を開け、汚泥の除去作業を行った。



4 公園・花壇

住宅街の中にある公園や花壇なども被害を受けたため、汚泥の除去に加え、遊具や施設設備品の清掃・消毒を行った。

③ 被災農家への支援活動



壊れずに残ったビニールハウス内の汚泥の除去作業。

高校生の部活や団体でのボランティア参加者に多く関わっていただき、延べ数百名の手作業で行われた。災害翌年新たに植えたトマトは収穫が良かったという。

川の氾濫によって流れ込んだ水とともに被災ゴミや流木などが大量に畑に漂着した。機械ではできない除去作業を手作業により実施した。

至る所に生じたぬかるみや亀裂により、トラクターでの収穫が危険になった畑では農作物の収穫や野良イモ（そのままにしておくと来年芽を出してしまう漂着したジャガイモ）を拾う作業を行った。



④ 思い出の品救出「Omoidori Project」

浸水してしまったアルバムなどの思い出の品の修復作業を実施。



1

アルバムから汚れ・泥を除去し、台紙から剥がす



2

写真の表・裏、両面に塩化ベンザルコニウム液を用いて消毒し乾燥させる



3

写真用紙の周辺に付着した汚れを腐食・劣化の防止のためカット

4

アルバム スキャナー「Omoidori」で撮影しデジタル化

5

デジタルデータを加工・修正しデータ保存

6

写真本体は新しいアルバムに収め、データ (HDD) とともに返却



⑤ SNS（Facebook）での情報発信

災害ボランティアセンター立ち上げから3日後の9月3日。公式Facebookアカウントを作成し情報発信を開始した。

1. アカウントの立ち上げ

上川管内の市町村社協応援職員の協力により公式アカウントを作成。当初は南富良野町社会福祉協議会職員を含め数名が管理者となり、情報発信を行った。しかし、災害ボランティアセンターの運営に時間を要しFacebookへの投稿（情報発信）回数は限定されていた。

2. アカウント権限の移譲

アカウント開設から3日後の9月6日。情報発信の必要性を鑑み、長期間運営に携わることができる運営者有志（シューティングスタープロジェクト代表西村勇太氏、南富良野町地域おこし協力隊服部理沙氏）に管理者権限を付与し、情報発信力を強化。

3. 活動内容の発信

当初はボランティア活動の認知度向上を目標に、作業内容や一日の流れ、服装や携行品などの情報に加え、ガソリンスタンドや商店、飲食店の開店情報などを発信。その後は、南富良野町の復旧・復興状況などやイベント周知等にも役立てた。

4. 情報発信の効果

2016年9月3日から2017年10月2日時点で、投稿回数は437回。アップロードした画像は1,030枚。2,838人より「いいね！」を頂き、フォロワーは2,824人。回覧数は、2,001,619人となった。



西村氏からのひとこと

FacebookなどのSNSは、全世界にむけて発信できるツールとして用いられており、顔の見えない相手へのやり取りや、不特定多数への発信手段でもあるため、使い方を間違えないよう「血の通った、人間関係！」を大切に想いながら投稿しました。

⑥ 住民に対する啓発活動

災害ボランティアセンター開設から5か月が経過した2017年2月17日、南富良野町の住民を対象にした「南富良野町災害ボランティアセンター活動報告会」を開催した。

シンポジウム「南富良野町災害ボランティアセンターの取組について」

【進行】 服部 理沙氏（地域おこし協力隊・災害VCスタッフ）

【助言者】 篠原 辰二氏（台風第10号災害被災者支援活動アドバイザー・
一般社団法人 Wellbe Design 理事長）

【報告者】 内田 誠治氏（災害ボランティアセンター副センター長）

本多 貴子氏（認定NPO法人どんころ野外学校）

助言者からボランティアセンター運営の仕組みや関係する組織について解説後、ボランティアセンターに携わった2名の運営スタッフによるシンポジウムを実施。災害から半年を迎える前に、いまだ不安を持たれている方もいる中で、報告会を通し、少しでも活動を知ってもらい、地域の方と更に寄り添い合えるようになればと思いを伝えることができた。

参加者からは、「わかりやすい言葉で報告してもらえてよく理解できた」「ボランティアセンターの果たした役割がよくわかり意義深かった」「ボランティアさんの力が住民さんの原動力になっていることを改めて感じた」といった感想が寄せられた他、住民の方からボランティアの方へメッセージも頂き、後日ボランティアの方へ届けることができた。



5 ボランティアセンターの支え手

(1) ボランティアセンター運営に対する協力

① 南富良野町からの補助

- ・ボランティア活動保険料(9月～) 1,143名分 342,900円
- ・災害ボランティアセンター運営費(11月～5月) 1,395,845円

② 活動資機材の提供

活動資機材を提供して頂いた方々(敬称略)

- ・NPO 法人にいがた災害ボランティアネットワーク
- ・日本青年会議所北海道地区協議会
- ・(株)大洋旭川支店
- ・ADRA Japan
- ・Coleman
- ・JA ぶらの 女性部
- ・JA ぶらの南富良野支所
- ・JA 女性部 中富良野支所
- ・JA 上川地区女性協議会
- ・JA 東神楽 女性部
- ・NPO 環境ボランティア「野山人」
- ・旭川市社会福祉協議会
- ・アラタ工業
- ・ブルーホリックシーカヤックステーション
- ・シューティングスタープロジェクト
- ・道路工業株式会社
- ・パタゴニアアウトレット札幌店
- ・パタゴニア札幌北
- ・株式会社ヤマサ
- ・つるや金物店
- ・株式会社亀屋齊藤商店
- ・旭川トヨタ労働組合
- ・旭川信用金庫
- ・旭川東部会 郵便局
- ・芦別建設企業組合
- ・伊達ライオンズクラブ
- ・遠軽東保育所
- ・株式会社 MonotaRO
- ・株式会社 北海道健誠社
- ・株式会社セブン&アイ・ホールディングス
- ・公益社団法人 富良野地方法人会
- ・黒松内ふるさと創世塾
- ・今治ライオンズクラブ
- ・三笠カヌークラブ
- ・山部商工会
- ・少林寺拳法富良野光明寺道院
- ・上川女性協議会
- ・新日本婦人の会富良野支所
- ・大北土建 婦人会 蘭の会
- ・鶴屋金物店
- ・北海道弟子屈高校
- ・天理教幾寅分教会
- ・東神楽ママさんグループ「かりんこ」
- ・日里まさし 後援会事務所
- ・美瑛町社会福祉協議会
- ・ライオンズクラブ国際協会 331B 地区 富良野ライオンズクラブ
- ・富良野商工会議所
- ・富良野地域精神障害者自助グループピアネットぶらの
- ・福崎町立福崎小学校 他
- ・兵庫県移送サービスネットワーク
- ・平和運動フォーラム上川地区連絡会
- ・北海道エア・ウォーター株式会社
- ・有限会社 山川海舎
- ・留萌みなとライオンズクラブ
- ・和寒町社会福祉協議会
- ・名寄市社会福祉協議会
- ・一般社団法人 Wellbe Design

③ 運営協力者

ア. 道内社協応援職員の受け入れ（延べ人数）

33 市町村社協、道社協あわせて 435 人

イ. 運営支援者の受け入れ（延べ日数）

- ・災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援 P） 2 名 41 日間
- ・全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD） 1 名 13 日間
- ・日本青年会議所北海道地区協議会（JC） 100 名以上 24 日間
- ・一般社団法人 Wellbe Design
（台風第 10 号災害被災者支援活動 Adv. 含む） 25 日間

ウ. その他協力機関等

- ・NPO 法人南富良野まちづくり観光協会
- ・認定 NPO 法人どころ野外学校
- ・NPO 法人ホップ障害者地域生活支援センター
- ・南富良野町振興公社かなやま湖保養センター

個人（数日にわたり運営を支えてくれた方々、五十音順・敬称略）

南富良野町民

- ・虻川里志（整骨院／ニーズ調査係）
- ・内田誠治（アウトドアガイド／副センター長）
- ・加藤哲夫（団体役員／ボランティア受付係）
- ・齋藤弥生（主婦／気づかい係）
- ・坂本大地（大学生／マッチング係）
- ・坂本暢（アウトドアガイド／マッチング係）
- ・杉村知香代（保育士／ニーズ受付係）
- ・杉村政代（放課後子ども教室コーディネーター／ニーズ受付係）
- ・中島靖暁（大学生／雑務担当）
- ・服部理沙（地域おこし協力隊／ボランティア受付係・ボラセン新聞作成）
- ・西山雅明（団体役員／ボランティア受付係）

南富良野町に縁のある方々

- ・石垣結（元町民・公務員／雑務事務・気づかい係）
- ・橘沙苗（元町民・団体職員／ニーズ受付係）
- ・坪内誠子（元町民・自営業／気づかい係）

その他

- ・太田拓実（言語聴覚士／医療係）
- ・天元隆（会社員／ボランティア受付係・気づかい係）
- ・西村勇太（イベントオーガナイザー／WEB 対応係・Omoidori Project）
- ・藤崎泰造（経営コンサルタント／立ち上げ初期の運営支援）

その他多数の皆様にもご協力いただきました。

(2) ボランティア活動者への炊き出し協力

ボランティアセンター開設中の炊き出し支援は実に 27 日間にも及んだ。

9 月 1 日のセンター開設直後より飲食店経営者、各種団体から炊き出しをしたいとの問い合わせをいただき、9 月 3 日には南富良野町赤十字奉仕団による最初の炊き出し支援が実現した。

あたたかい食事を提供することで被災した方を元気づけたい、泥だらけになって活動して下さる方々を応援し感謝の気持ちを伝えたいという想いが最大限に届くように事前に日程や場所、メニュー、食数などの打ち合わせを行ない調整を図った。

その後も富良野市や新十津川町の飲食店、札幌を拠点に道内各地に店舗を構えるスープカレー専門店、南富良野町・上富良野町赤十字奉仕団や南富良野町商工会、東北関東大震災支援を行なう団体『BOND&JUSTICE』などより複数回の支援を受けた。町内で被災した店舗からは復旧後何度も焼きたてのピザを提供していただいた。また、食による観光まちづくりを行なう団体『富良野オムカレー推進協議会』『南富良野エゾシカ料理推進協議会』からも地域の特色を活かしたご当地グルメが提供された。

こうした手作りのあたたかい食事が疲れを癒し、受け渡し時のコミュニケーションが提供する側、される側ともに多くの笑顔を生んだ。



(3) ボランティア活動者への差し入れ

企業や個人からの差し入れも大小問わず連日のようにいただいた。

大手菓子メーカー株式会社湖池屋様、カルビー株式会社様や食に関する事業を展開している企業から、食品や飲料などを提供していただき、ボランティア活動者のエネルギー源となった。

また、被災した農家の方からは商品として出荷できなくなったじゃがいもやにんじん、かぼちゃ、スイートコーンなどの野菜をたくさんいただき、ボランティア活動者のお土産として喜ばれたのも南富良野町らしいと言える。

何度も足を運んでくださったボランティア活動者からは、センタースタッフのエネルギー補給にとお菓子や飲み物などのお気遣いをいただくこともあった。



(4) 赤い羽根共同募金 災害ボランティア・市民活動支援制度

各都道府県共同募金会では、災害時に被災地で活動する NPO・ボランティア・グループおよび民間の災害ボランティアセンターなどの支援を行うため、「災害等準備金」の積立てが行われている。

国内で災害が発生した場合、この資金をもとに、災害ボランティアセンターの設置や運営等への助成や、被災地において被災を受けた方々の支援・救援活動を行う NPO・ボランティア・グループおよび民間の災害ボランティアセンターなどへ活動資金助成が行われる。

今回の台風第 10 号被害においては、南富良野町災害ボランティアセンター開設後、北海道共同募金会へ、発災から 4 日後、VC 開設から 2 日後の 9 月 3 日に災害等準備金の申請を行った。

北海道で災害準備金が活用されたのは、今回が初めての事例となった。

災害ボランティアセンター、NPO 団体等の活用実績は以下の通り。

① 南富良野町災害ボランティアセンター

ボランティアセンター運営にかかる経費 総額 6,000,000 円

災害ボランティアセンターの運営経費

支出項目	金額
1 ボランティアセンター設置整備費	
① ボランティアセンター整備備品	
テント、デジタルカメラ、投光器、乾湿用掃除機他	1,470,013 円
レンタカー借上げ (2016/9/4~10/31 まで 10 台、 以降 2017/1/15 まで 3 台)	2,737,152 円
② ボランティアセンター事務用品	
コピー用紙、HDD、USB メモリー、パソコン周辺機器他	401,308 円
通信運搬費	292,659 円
手数料	2,296 円
③ 救護、衛生用品	
医薬品、飲料水、塩飴他	140,394 円
2 ボランティア活動消耗品	
スコップ、十能、バール、ドライバー、のこぎり他	690,426 円
燃料費	183,456 円
修繕費 (一輪車)	82,296 円
合計金額	6,000,000 円

② 認定 NPO 法人どんころ野外学校

被災者支援事業並びに復興イベント（主催及び協力）の実施における災害準備金、支援金の活用。

総額 2,820,467 円

被災者支援事業並びに復興イベント（主催及び協力）

支出項目	金額
1 事務所設置費	
物品等設備費用	
イナバハイルーフ物置 NXP98HT（他オプション等込）	520,870 円
2 事務所設置整備費	
①電話設置関係費	
携帯電話借上げ料（3名分）	19,000 円
②車両借上げ経費	
個人乗用車 2 台、ワゴン車 1 台（燃料代込）	89,370 円
マイクロバス 1 台（燃料代込）	100,963 円
重機：タイヤショベル 1 台、油圧ショベル 1 台（燃料代込）	52,000 円
③専門職員配置経費	
保健師、看護師（2名）	615,125 円
マイクロバスドライバー（1名）	46,250 円
重機オペレーター（1名）	20,000 円
3 備品・消耗品代	
①事務所消耗品	
ハードディスク、SDHC カード、コンテナボックス他	74,096 円
②センター運営及びボランティア活動用消耗品	
ノコギリ、ブルーシート、大型水タンク、ゴーグル他	307,468 円
③センター運営及びボランティア活動用備品	
チェーンソー、投光器、高圧洗浄機、発電機他	975,316 円
合計金額	2,820,467 円

③一般団法人 Wellbe Design

OmoidoriProject 及び情報発信活動における災害準備金、支援金の活用。

総額 1,173,978 円

【内、①被災住民の思い出の品（写真・アルバム等）の洗浄・修繕 1,011,706 円、
②南富良野町災害 VC 公式フェイスブック及びウェブサイトの運営管理 162,272 円】

① 被災した住民の思い出の品（写真・アルバム等）の洗浄・修繕

支出項目	金額
機材購入費	
iPhone : 8 台	523,273 円
パソコン : 2 台	171,088 円
加湿器 : 1 台	32,160 円
消耗品費	
ハードディスク、USB メモリ等	59,399 円
アルバム : 128 冊、ファイル : 2 冊	56,089 円
画像処理ソフト : 2 台	30,880 円
プリンタインク	36,980 円
文具類 : のり、フォト紙、消毒液、洗濯ばさみ他	22,569 円
郵送料	
ゆうパック、ヤマト便	2,874 円
旅費交通費	
ガソリン代 : 9~12 月	76,394 円
合計金額	1,011,706 円

② 南富良野町災害 VC 公式フェイスブック及びウェブサイトの運営管理

支出項目	金額
賃貸料	
レンタカー : 10/17~10/31 (15 日) 分	69,012 円
通信費	
日本通信 B-mobile : 11~2 月分	3,251 円
消耗品費	
モバイルルーター : 1 台	21,090 円
HDMI ケーブル : 1 本	2,138 円
旅費交通費	
ガソリン代 : 9~12 月分	56,221 円
高速使用料	9,960 円
駐車料金	600 円
合計金額	162,272 円

共同募金による災害支援制度について

北海道社会福祉法人 北海道共同募金会
事務局長

天 羽 啓



社会福祉法において共同募金の目的は地域福祉の推進にあるとされ、民間で行われる様々な福祉活動を財源面から支える役割を担う一方、地域の存立そのものを脅かしかねない大規模災害の発生にあたっては、全国の共同募金会が協調して独自の被災地支援活動を行っています。

各都道府県共同募金会では、大規模災害が発生した際の備えとして、日頃より共同募金に寄せられた寄付金の一部を「災害等準備金」として積み立てており、これまで東日本大震災や熊本地震災害等においても、この資金が被災者を支援するための災害ボランティアセンターの開設・運営資金などとして役立てられてきましたが、本道にも広範かつ甚大な被害をもたらした、平成 28（2016）年 8 月 20 日からの大雨台風災害の発生にあたっては、南富良野町のほか、十勝各町に立ち上がった災害ボランティアセンターの支援等に充てられ、ボランティアの活動を支える資機材や設備の確保などに幅広く活用されました。

この資金は、平成 7（1995）年に発生した「阪神・淡路大震災」がきっかけとなって共同募金会に創設されたボランティア活動支援資金制度が、平成 14（2002）年に現在の「災害等準備金」として確立したものであり、以降、本道では今回の大雨台風災害が初の適用となりましたが、

共同募金がこのような形で被災地支援にも役立てられていることが知られていくにつれ、道民の共有財産としてのその役割がますます期待されていると考えております。

このほか、有事において共同募金会では災害義援金の受付窓口を開設したり、災害支援金の受付と助成を行ったりしていますが、「災害等準備金」は唯一道民から寄せられた“共同募金”を財源とする資金となっています。



(5) 北海道内社会福祉協議会による支援

災害救援活動の支援では、道内 33 市町村社会福祉協議会（以下「市町村社協」）、北海道社会福祉協議会（以下「道社協」）あわせ、延べ 435 人の応援職員の受け入れを行った。

応援職員の受け入れについては、道社協と道内市町村社協で締結される「災害救援活動の支援に関する協定書」が関わっている。

この協定は、北海道内において災害が発生した場合を原則に、道社協と市町村社協が被災地市町村社協の救援活動を支援するため、必要な事項について定めることを目的とされている。

協定における、応援内容については、以下 4 点（①職員の派遣、②ボランティアの派遣、③救援活動に必要な物品、資材及び機材の提供、④その他被災地市町村社協の要請に応じた内容）の他、実施細目などは道社協と締結する市町村社協において、協議が行われることとなっている。

本災害においても、災害ボランティアセンターの運営を支援するため、災害救援活動支援協定を締結している市町村社協を中心に職員派遣が要請され、応援職員の受け入れを行うことで迅速な支援につながった。

(6) NPO 等による支援

南富良野町内外の NPO・市民活動団体等による多様な支援は、災害ボランティアセンターの活動を支え、被災者や被災地への支援活動を加速させた。

① NPO 法人 南富良野まちづくり観光協会

災害ボランティアセンター開設日から、所有する物品（ゼッケン、椅子、洗濯機等）を持参し協力した。引き続き、マスコミ対応（被災者との取材交渉、画像・記事送信のため LAN 開放等）、ボランティアさん向けに再開した飲食店や交通情報等の提供を行なった。10 月 29 日の「南富良野復興応援 さだまさしコンサート」では、窓口として開催に協力し、11 月 3 日の「復興まつり」では岩手県大船渡から寄付されたサンマ等を焼き、提供した。その後 1 年間継続して、マスコミ取材に協力し、復興状況を全国に伝えた。

また、観光協会窓口やモンベルフレンドフェア横浜会場・大阪会場で募金活動を行なった。寄せられた 146,456 円は南富良野町へ寄付され、町の復興に役立てられた。



復興まつりにて大船渡の焼きサンマを提供

② 認定NPO法人どんころ野外学校

南富良野町落合に拠点を置き、日頃から豊かな自然を案内するガイド業を盛んに実施している。

今回の災害で大きな被害にあいながら、災害ボランティアセンターの運営に携わり、サテライトである落合支所を担当、被災者支援事業や復興イベントも実施した。

また、地域の特色あるボランティア活動として、2016年10月16日かなやま湖でのカヌーを使った清掃活動と、2017年6月3日（土）に「ありがとうラフティング」を開催。どちらの活動も自然豊かな南富良野町という地域・人が持つ、発想や大切にしている価値観、自然の中で活動するための技術の中で実現した。



かなやま湖には大量の雨水とともに被災世帯の生活用品や被災ゴミ、流木などが流れ込んだため、カヌー愛好家を中心としたボランティアと共に清掃活動を実施した。

「ありがとうラフティング」

災害ボランティアセンター閉鎖に伴い、ボランティア活動に参加して下さった皆さんに感謝の気持ちをこめて、南富良野町内のラフティングカンパニー6社が協力して開催。

ガイドたちにとって仕事場でもある空知川は、今回の災害の原因ともなった。

水害によって変わってしまった空知川をボランティアの皆さんと一緒に下り、復興の手助けをしてくれたことに感謝し、また、ガイドたちは今後への勇気ももらった。



③ いのちをつなぐチャリティマルシェ

札幌と南富良野をつなぐ、ボランティアバスの運行が、災害 VC 開設から 4 日目というスピードで開始され、南富良野へ毎日バスを走らせてくださった。9月4日から10月16日は連日運行、ボランティアセンター縮小後は、活動日に合わせて運行され、運行日数は全 44 日間にのぼる。

早朝 5 時に札幌を出発し南富良野町へ到着、活動終了後南富良野町を出発し 19 時頃に札幌に到着。ハードスケジュールにも関わらず、計 575 名の方が利用し通ってくださった。リピーターで来てくれるボランティアの方も多かった。

また、ボランティアバス運行のため、全国各地から「いのちをつなぐチャリティマルシェ」へ 5,367,933 円の寄付金が寄せられた。

そのうち、バス運行代の残金 1,357,789 円が災害支援金として南富良野町へ寄付され、町の復興に役立てられている。



④ NPO 法人ホップ障害者地域生活支援センター

障害者が地域のなかでごくあたりまえの市民生活をおくることができるように、地域での生活をサポートする事を目的とする法人。開設当初より移送に関する活動に力をいれて取り組んでおり、災害の現場においてこれまでも移動の手助けを中心として支援活動を行ってきた。

この度の災害では、社会福祉協議会の移送サービスの車両が流されてしまった穴を埋めるため、9月3日より NPO 法人自立支援センター^{ほぼろ}歩歩路（札幌）・NPO 法人とむての森（北見）・NPO 法人なないるニカラ（上富良野）・社会福祉法人ゆうゆう（当別町）・NPO 法人でかけ隊（兵庫県）・個人ボランティアの方々と協力し、町内外への通院の送迎を行った。

開始当初はボランティアでの送迎に対して遠慮もあり希望者が少なかったが、徐々に認知され、また、診療のキャンセルをされていた方々が通常通りの通院に戻っていったこともあり、多い時には 1 日 20 名の送迎を行っている。

社会福祉協議会での移送サービス再開に伴い、28 日間の活動を終了した。



⑤ 公益社団法人日本青年会議所 北海道地区協議会

青年会議所の支援拠点として北海道 JC 災害対策本部を設立し、北海道社会福祉協議会や道庁危機対策課、各諸団体と災害状況の確認と協議を重ね、支援体制を整備し激甚災害に対する各地にて支援活動を実施。

南富良野町においては、9月6日から10月1日までの24日間、全道各地青年会議所から人的支援として延べ100人以上が協力し、現地への資材の運搬・支援や現地における資材管理、床下浸水あった家屋の汚泥除去作業、自宅の引っ越し作業など運営や作業に参加。

また全道各地の青年会議所において支援に向けた義援金の募金活動が行われ、現地での仕出しなども行われました。

支援資材	数量
土嚢袋	2,800 袋
養生テープ	10 本
高圧洗浄機	5 台
消石灰	約 3,500kg
ニトリルグローブ	80 箱
十能	20 本
スクレーパー	38 本
フレコンバッグ(トン袋)	30 枚
不織布つなぎ	110 着
熊手	13 本
他	



4

災害ボランティアセンター 閉所後の動き

(1) 九州北部豪雨災害の被災地福岡県朝倉市への復旧支援ボランティア
(2017.7.19 ~ 20)

2016 年本町での洪水災害では全国から多くの方の支援を受け、早期復旧を果たすことが出来た。九州からも 6 名のボランティアの方が駆けつけ、復旧作業に携わっていただいた。

こうした多くの支援に対し、2017 年 7 月 5 日から 6 日の豪雨により発生した福岡・大分県の大雨洪水災害に際し、少しでも恩返しが出来ればとの思いから町と社会福祉協議会が協議し、町職員・社協職員 5 名による支援隊を結成。

被害が大きく災害ボランティアセンターの立ち上げが早かった福岡県朝倉市に入り、7 月 19 日 20 日の両日ボランティア活動を行った。

【北海道新聞 2017 年 7 月 22 日（金）掲載】

被災経験糧に復興へ汗

福岡でボランティア 南富良野町職員らに聞く

九州北部豪雨で甚大な被害を受けた福岡県朝倉市の比良松地区で19、20の両日、ボランティアとして入り、被災家屋の泥出し作業をした南富良野町と同町社会福祉協議会の職員5人。昨夏、南富良野を襲った水害の被災経験を生かして猛暑の中、スコップを手に汗をぬぐいながら作業した。それぞれの支援に対する思いを聞いた。(聞き手・岩崎あんり)



直後こそ人手必要

町総務課長補佐
河原隆則さん(51)

比良松地区の被災規模は南富良野と大差ないように感じます。水害は生活しながら片付けを進めなければならない一方、泥が固くならないように早期に処理する必要があります。家の中の片付けは機械があってもどうにもならないので、被災直後こそ人手が必要であることを改めて実感します。

比良松のみならずからは「何をどうすれば良いか分からない」と



少しでも恩返しに

町議会議務局総務係長
新谷友規さん(43)

北海道と九州では家の造りにも違いがありました。南富良野では断熱材や防湿シートを破りながらの作業でした。その点では、比良松地区での作業はやりやすい面もあります。

今回の状況は、泥が家屋の中に入ってしまった状態で、南富良野と似ています。作業手順は分かっているため、道具の準備など十分行なった上で参加できました。

作業にはかく人手が足りないのも同じ。その点で、昨夏は全国から本町に多くの支援をもらいました。少しでも恩返しにつながれば幸いです。



暑い中の作業過酷

町社協常務理事
上林康政さん(65)

道外への支援は距離が遠いという障壁がありますが、早い段階で駆け付けるところができて良かった。

南富良野の壁の泥出し作業は砂利や石、畑の土など、あらゆるものが混ざっていて、かき出したいものですが、ここでは行が混ざるとも少なく、多少やりやすかったです。ただ、朝倉の暑さの強い環境での作業は過酷でした。

復興はまだ初期段階で、泥を片付けて初めてお母様の求める支援内容が出てきます。雪が降らない分、区切りがないでしょうし、長期化すると思います。

南富良野との最大の共通点は「川の氾濫は想定外だった」ということ。暑気が増える中、十分な備えが必要ということを感じました。



対話では聞き役に

町社協主任
北嶋洋嗣さん(39)

報道では山間部の土砂災害を中心に伝えられていますが、比良松地区を見てみると、市街地の浸水被害は思った以上にひどかった現実を知ったと思います。昨夏は社協での書庫保管や、町内の高齢者施設への巡回の泥出しなど復旧作業などに追われました。作業が落ち着いてから、被災した町民を訪問して対話を重ねました。

その経験から、ボランティアで活動する上で被災した方とのコミュニケーションに気を付けました。中には語りたくないこともあります。相手から出来事や気持ちを話された時にだけ聞き役に徹する気持ちで臨みます。

対話ではあくまで受け身になることが大事。それは、この被災地でも同じことだと思います。



心理的なケア大切

町社協主任
赤石和弥さん(42)

予想以上の大きな被害を目の当たりにして言葉もありません。建物の基礎がもみ出しになった比良松の体質を見た時は衝撃を受けました。水が引いて砂ぼこりの舞うまは、昨夏の南富良野と重なります。

今は家屋などの復旧作業が最優先ですが、落ち着いた後には地域の方たちに対する心のケアが大事になってくる。社協ではケアマネジャーとして町内の高齢者のお宅を訪問しています。が、まちが水に漬かったという初めての経験に心深く残っている方もいる。

比良松地区も南富良野と同様、人的被害がなかったのは不幸の幸いでしたが、被害を受けた方の身になって考えることが大切。心理的なフォローが入ることを願います。

(2) 南富良野町災害ボランティアセンター被災者支援活動報告会 (2017.10.23)

2017年10月23日(月)札幌市にて、被災者支援活動報告会を実施。

約50名が来場し、当時実施した被災者支援活動の内容とともに、センター閉所後の状況について、「災害から一年を経て伝えたいこと」と題し報告した。参加者には、当時災害ボランティアに参加していただいた方々も多くみられ、災害ボランティアセンターの運営者の側面から、当時の想いを振り返りながら、伝えることができた。

災害の備えとして、地域住民や関係機関とともに平時からの連携や情報共有を密にしていくことなど、今後の災害への対策や災害時の支援活動の展開について考える場となった。

参加者からは、終了後以下の感想が寄せられた。

- 当時、運営に一部協力させていただきました。去年の記憶がよみがえり、現在、完全ではなくとも少しずつ復興している南富良野町を今日の報告で聞くことができ、とても嬉しく思いました。住民、人とのつながりの大切さを改めて感じました。今日はこのような報告会を開いていただきありがとうございました。
- 色々な側面からの話が聴けて本当に来て良かったと思えました。心に沁みる言葉がたくさんでした。ありがとうございました。私も情報発信をして周りにつなげていきたいです。
- 平時のつながりの大事さは、わかっているけどなかなか進まない現状がある。少しずつでも、「つながり」を築いていけたらと思った。ボランティアは作業などのお手伝いだけでなく、心のささえになっているとあらためて感じることができました。ためになる話をたくさん聴くことができました。ありがとうございました。
- 様々な人達の協力があって、南富良野の復旧、復興が進んできたことを知りました。南富良野での教訓を、今後に繋げていくことが重要だと感じました。

ボランティア 課題探る

23日夜に札幌市中央区の「かでの2・7」で開かれた南富良野町災害ボランティアセンター(VC)の活動報告会では、昨夏の台風水害で被災した町の復旧に向け、VC運営の中核を担った4人が発言した。開設された8カ月間、前例のない運営に苦慮したことのほか、道内外から参加した延べ5982人ものボランティアや、団体や有志による運営サポートに支えられたことなどを紹介した。(岩崎あんり)

南富良野台風被害 センター活動報告

西村勇太さん(40) 〓 芦別市在住ボランティア

被災地からSNSで発信

南富良野に入った直後から会員制交流サイト(SNS)で情報発信を続けました。車中泊だけで計70泊になります。初投稿は昨年9



月3日。今月2日現在で437回の投稿、掲載写真は1030枚に上ります。関東圏、海外も含め2824人からフォロー(定期閲覧)されました。田舎な運営のため1日の流れや服装、必要な持ち物、活動件数などデータも毎日公開。住民の了解をいたさず、個人名や住所の明記を避けつつ活動の様子を写真とともに発信しました。被災された方からは、発信者が同じ被災者の町民だと「気兼ねしてしまう」との意見もありました。今回のようなページ運営は、地域外からの第三者に委ねることも大切だと思います。

内田誠治さん(43) 〓 VCの元副センター長

大震災の経験 南富良野でも

自宅が被災し、最初はほうぜんとなりました。東日本大震災の被災地でボランティアをした経験からVCの必要性を感じ、9月1日午



前時ころ町役場に「立ち上げたい」と申し出ました。町民体育館を借りました。運営や資材確保で道内外の団体、有志の方に支えられました。一方で、報道対応に振り回されたり、本州とは違う北海道の住宅ならではの作業に難しい判断が求められたりもしました。大きな災害を経たなお、南富良野の防災意識には課題があります。経験を基に今後自分なりにまちづくりに関わっていききたい。

伊賀未奈さん(31) 〓 南富良野町社会福祉協議会主事

平時のつながり 最大の備え

VCでは人、モノ、お金の面で多くに支えられました。活動した延べ5982人の方たちは本場に丁寧に作業してくれました。



団体にも支えられました。札幌の団体は車13台が被災した町社協に代わり、町外の病院への町民の移送を買って出してくれた。名寄せ

市社協は計5人ほどが交代で常駐し、ボランティア派遣の仲介を続けてくれました。地域の児童生徒、高齢者大学の皆さんもお見舞い品の配布など率先してお手伝いいただいた。運営面では何より、地域のためという目標が内部で一致していました。地域住民と関係機関との平時からの連携や情報共有が、災害への最大の備えになります。今後その態勢をしっかり作っていききたい。

篠原辰二さん(41) 〓 一般社団法人ウェルビーデザイン理事長

日常取り戻す中期の手助けに

VCの組織構築や関係団体との調整など運営のお手伝いをしてきました。2000年の有珠山噴火時もVCが開設されましたが、V



C主体で家屋の泥出しなどの活動をしたのは道内では南富良野が初めてです。VCの仕事は駆け付けてくれたボランティアの派遣

だけではありません。資材の調達や、住民とボランティアの双方からの相談も受けます。開設当初の運営メンバーの打ち合わせは毎夜、口をまたぎました。根底にある役割は、被災された方の暮らし全体を支えること。日常を取り戻すには時間がかかります。発生直後は住民同士で助け合えますが、その力は徐々に減っていく。再び力を取り戻すまでの中期を支えるのがVCの活動なのです。

南富良野町 災害ボランティアセンター 被災者支援活動報告会

2017.10.23(月) 18:30~20:30 かでる2.7 1060会議室

災害から一年を 経て伝えたいことへあの日あの時は今〜

伊賀さん 南富良野町社協
 南富良野を 支えてくれた ひとへ想い
 国道河水 空突川 2Fへ避難していた。 ※被害状況

5,982名のボランティア
 南は熊本も参加 社協と知らない人も。 苦情が なかった

ボラパス 1のちでなく4つ付ルレン。 575名
 何度もしてくれる ボラパスの方 朝早くからと遅くまで

VC運営
 道社協 道の内社協 各町内会
 名寄社協に一本にて 暮らし(マルチア) 大学生 社会人 町内外

移送活動 (HOPさん) 被災した社協の 救世主!!

中学生 小学生 高校生 高齢者 大学 町内外
 2日に1回の 炊き出し! 支援物資 217件 支援金

VCの 郵便の 整理

宮道 籾原 伊賀 内田 西村
 8ヶ月 6000名 2000 うま山 避難所生活支援 2016 台風10号 北海道をはじめ7の 災害VCのため 29発する災害

地域防災計画 災害VCの 運営支援 (Welle Design) ドクワストア

連絡調整
 ニーズ対応
 VCの集束
 VCネットワーク
 資材調達
 広報

泥だし
 たまだし
 物資
 為替
 活動

VC(おま) 10の返済 3のJVOAD 3のJVOAD 住民が 住民が 住民が

内田さん 元副センター長

自宅が被災(南富良野) 2011年 杉子みか子市 YMC Aからハケン VCを立ち上げ 必要!! 9.1早期 役場へ 各人のVCの開設

農協の調整 泥だし 農家 商店 制度活用 長期の視点) 重要

活動資金 北海道共同募金 約1,000万円
 キラの3%が活用。 レンタカー代、ガソリン代、等

そして今...
 地域医療福祉連携会キ
 VC活動記録集の作成
 九州豪雨災害への ボランティア派遣

今後にむけて
 何がおきてもおかしくない
 平時の連携 情報共有
 地域にこそ人のための VC 運営

社協-NPO法人で2つの野分等校 等と協働し。 南富良野町災害VCの開設

住民にやりすぎた 活動でできたと思う

西村さんに 情報発信 支援 運営 役場

全6回の新聞の発行。 V・人をつなぐ 職部

資材
 にいがた災害VN (9/10) 青年会議所(JC) 地元の企業 全国のストックカード (5ヶ所から) 北海道特有の事情 断熱材の確保 北海道スリット災害!

災害対策本部の中で VCのうごきを共有 した → 9月中旬 画一的

移送活動 (HOPさん) 被災した社協の 救世主!!

VCの 郵便の 整理

西村さん

車中泊 70泊 SNSでの情報発信 437回(投稿) 1030(画像) 633人 378人 204人 男女 56:44

古情報か 拡散され 続けた。 ⇒ 発信日時を 記載。

9月300件以上 だったらしい。

個別メールの対応 ニーズ Vの参加人数の制限 に対してのよい方法。 支援地域外の人の参画 身近な住民に知れたこと 多かったかな。

1日の流れ 服装の目安 VC統計データ

5000枚 30,000枚(サルバ-活動)

冬の期間のVC ⇒何がわかるかな からいこう。という判断。 情報発信 民間同士の集まり 次の被災地へ

人のつながり 大事 これからの南富良野の まちづくり 血の通った 人間関係は 大切

4/4 防災訓練 4人が集まらなかった 50%くらい 持参、今後の期待

みくら 避難所 運営の参考点 先生に対しての 期待。

「なにができたか」が 本質ではない

「こんなにきれいになったのか」 ことで破滅すると思っ ていたことが①の仕事。

ボランティアの人たち きて来て、本当に たすかした。

発災情報 支援情報

向あわせの伝言 100%だった。 外の人がやるに ことにはある



グラフィック：宮道喜一（NPO 法人まちなか研究所わくわく 副代表理事・事務局長）

(3) 地域医療連携会議 (2017.7.6/2017.10.5)

災害を経験した「私たち」がこの経験を今後活かすために、「わたしのまちのよるカフェ」と題して関係機関が集まり、災害を振り返り向き合う事や、平時からの連携を考えるための情報共有を行っている。医療・介護・福祉等の分野を問わず普段から顔の見える関係作りを通して、お互いを知り、これからどうすべきかを一緒に考えることで互いに支え合い連携できる関係づくり・災害にも強いまちづくりを目指している。



(4) 気候変動への対応策を考える学習会 (2018.1.18)

2016年台風第10号など豪雨災害に対し、今後も気候変動の進行に伴って激化することが考えられる中、非常時を乗り越える平常時からのつながりをはぐくむ必要性について検討。

「自然災害に環境NPOはどう向き合うのか」

【主催】環境省北海道環境パートナーシップオフィス

【共催】NPO法人北海道NPOサポートセンター

【報告者】認定NPO法人どんころ野外学校 新野 昌子氏

元スタッフ 本多 貴子氏

一般社団法人 WellbeDesign 理事長 篠原 辰二氏

災害にどのように対応したのか、日ごろのNPOの活動も交え、地域の関係者や関係機関と連携協働した被災者支援の報告を行った。



5

メッセージ

南富良野町の皆様から寄せられたメッセージ

① 当時を振り返って

● 森 夢香さん（災害当時、南富良野小学校 5 年生）

友だちと一緒に行こうといったから行きました。

どろ出しや水くばりをしました。

自転車で水をくぶりながら町をみました。

私の家の畑もひどいですが、町もみたらおもっていたよりもひどくてびっくりしました。

どろだしは、こんなにどろがはいつているとも思っていませんでした。

こういう体験できてよかったです。

● 坂本 大輔さん（災害当時、北海道富良野高等学校 2 年生）

私は 8 月 31 日の夜中に川の氾濫が来てからの避難でした。足が震えるほどの恐怖を今でも忘れられません。私の他には、逃げ遅れ車庫の上や屋上にいる方々もいました。川の氾濫によって思い出の写真や畑などたくさんのことを失いました。

私は生まれも育ちもこの南富良野町で、いろいろな人の支えがあり、今の自分があると思っています。早く復興してほしい、日頃の恩返しをしたいという思いでボランティアの初期メンバーという形で参加しました。内田さんを中心に私たちはチラシを作り、配り、知らせるという作業からのスタートでした。その後、家の中の重い荷物を外に出す、泥出しという作業が多くなりました。家の中は想像以上なもので、被害にあった方にどのように接したらいいのか、難しかったです。

私たちが生きてく中で自然災害はいつ起きるかわかりません。災害が起きた時のために準備をすることが大切だと身にしみて感じました。



●佐藤 光昭さん（災害当時、南富良野小学校 教諭）

社会福祉協議会からの依頼を受け、南富良野小学校からは 30 名近くの児童と保護者がボランティア活動に参加しました。

小学生の役割は「ボランティアセンター移転のお知らせ」を被災した家庭に手渡しすることでした。南富良野小学校のチームは「うるうる隊」と名付けられ、全国各地からボランティアにかけつけている多くの方々からも大きな拍手をもらいました。（前頁写真参照）

始めに行ったのは配布物の準備です。お知らせのプリントや支援物資などを袋詰めする作業を行いました。できあがった配布物は子ども達が数を数えながら、地区ごとに分けられたダンボール箱に入れていきます。

配布物の準備が整った後は、4つのグループに分かれて被災した各家庭に配ります。

子ども同士で相談し、チャイムを押す人、移転のことを伝える人、支援物資を渡す人といった担当を決め、練習をしてから配布を始めました。1件目のドアチャイムを押す時の子ども達はかなり緊張していましたが、上学年の子がうまくリードし、協力しながら活動しました。

地域の方々は、突然の小学生の訪問に驚いていましたが、子どもたちがボランティア活動で地域をまわっていることを知ると、誰もが笑顔になりました。

何件もまわっているうちに子ども達も慣れてきて、挨拶の声も大きくなり笑顔が増えてきます。配布作業は午前中いっぱいかかりましたが、最後の1件まで配布物と一緒に子ども達の笑顔と元気を届けることができたと思います。

午後の活動は、ボランティアセンター移転のお手伝いを行いました。数名ではありますが、習い事や家の用事で午前中の活動に参加できなかった子ども達も合流してくれました。

全員で移転先の「みなくる」へ行き、ボランティアセンターの設営を行いました。

上学年の子ども達は、自分の体より大きいブルーシートを広げ、低学年に声をかけながらシートが動かないようにテープを貼っていきました。1年生の子ども、小さな手でかたいガムテープを切っていました。子ども達にとっては今までやったことのない初めての作業でしたが、予定していた場所をすべて貼り終えるまで、どの子どもも笑顔で取り組む姿が見られました。

今回のボランティア活動で子ども達は「誰かのために」働く多くの大人たちの姿を目の当たりにしました。自分たちがやりたい仕事をしにきたのではなく「できることがあれば何でもやります」と遠くから手伝いに来ている大人たちの姿を見て、だれにほめられるわけでもなく、ただただ「南富良野の力になりたい」と泥まみれになって働く大人たちの姿を見て、子どもたちなりに何かを感じ「自分にできること」をさがして取り組んでいたのだと思います。

活動の後は、炊き出しのラーメンを、みんなとてもおいしそうに食べていました。

●坂井 秀子さん（南富良野町在住）

本当にたくさんのボランティアさんに来ていただいて有難かったです。でもそう思えたのはボランティアさんが来なくなって一息ついたところで、復旧作業をしているときは何を考える暇も無く作業をしていました。年明けに自分一人で作業をしているときにやっぱり辛くなって涙が出たし、ボランティアさんの力って本当にすごいなと心から思いました。連日来てくれる方もいて、京都の男性は1週間くらい来てくれました。名前はわからないけれど顔は今でも覚えている人もいて、精神的にもすごく励みになりました。ボランティアさんはとても気を遣ってくださって「私たちだけでやるから休んでいいよ」と声をかけてくれたけれど、やっぱり自分も一緒に作業をしないと、と思ってやっていました。体力的にも辛かったけれどボランティアのみなさんとやれたから今は後悔なく「やりきった」と思えるし、とてもいい経験をさせてもらったと思っています。“ボランティア”で気軽にできるイメージがあるけれど、全然そんなことないし、狭い床下にみんな潜って全身泥だらけでも頑張ってくれたボランティアさんには本当に感謝しています。今でも災害の写真や映像を見ると当時を思い出して涙が出るけれど、今はまた畑もできるし、庭の花も咲くから嬉しいです。ボランティアさんがいなかったらここまで頑張る事ができなかったと思うので、本当にありがとうと伝えたいです。

●佐々木 智一さん（南富良野町西町町内会）



小地域ネットワーク活動について

一昨年の災害の際にボランティアをはじめ、各関係機関の皆様に、多大なる御支援・御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

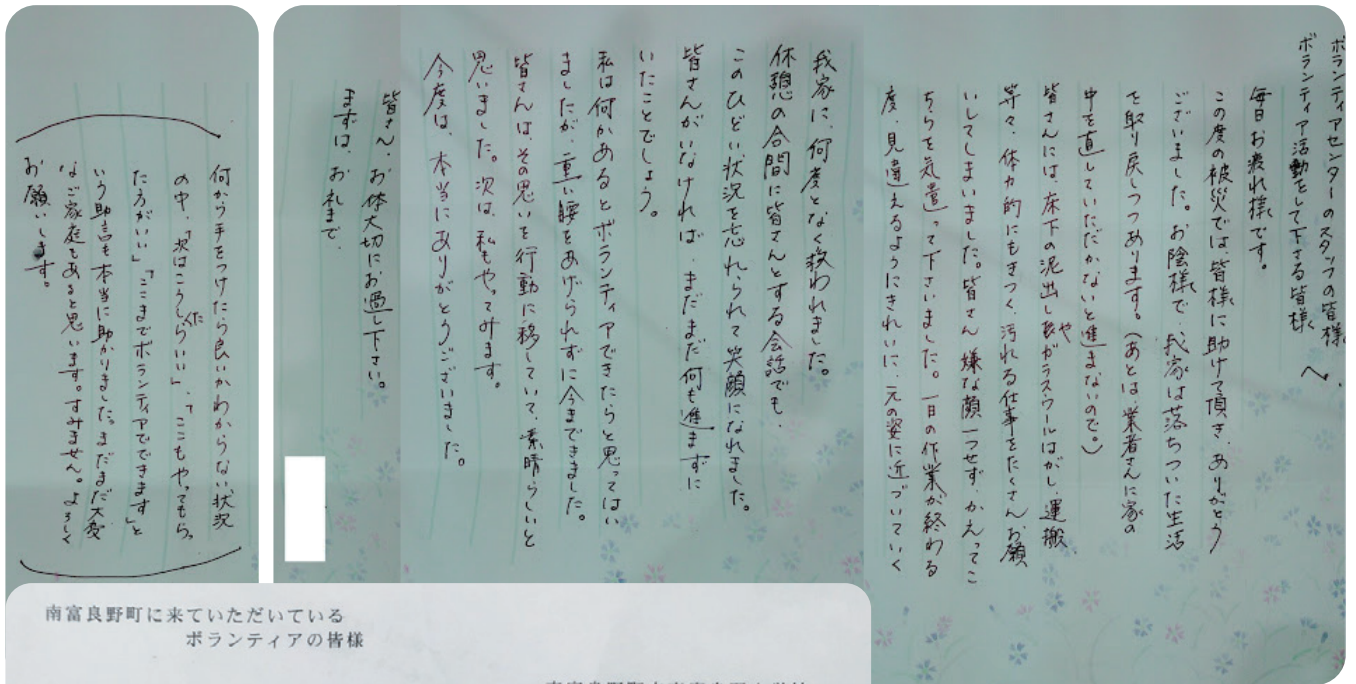
被災当時は、町内会の住宅は床上・床下浸水の被害に遭い、住民みんなが災害ボランティアのお手伝いを受けながら、自分の家の片づけで精いっぱいでした。

その後、住宅の修繕で町内の方が一時、他の住宅に移動していきしましたが、誰が何処に避難をしたのか町内会としても全てを把握できず、修繕終了から順次戻ってきていました。

11月下旬頃に社会福祉協議会より、町内会への引っ越し協力依頼があり、役員会を開催し、ボランティア依頼を周知したところでした。結果、3週で各週とも9名程度、のべ30名の協力者が家具等の運搬や高齢の方は軽い物の運搬、女性の方は住宅内清掃や部屋内への運搬と役割を分担してお手伝いを行っていただきました。

このような機会があり、町内会の皆さんも、心の中では何かしたいと考えているが、ボランティア登録までは・・・と躊躇していた背中の後押しが出来たのではないかと考えています。お手伝いいただいた町内会の皆さん、本当にありがとうございました。

② お礼のメッセージ



南富良野町に来ていただいている
ボランティアの皆様

南富良野町立南富良野小学校
校長 谷口 隆市

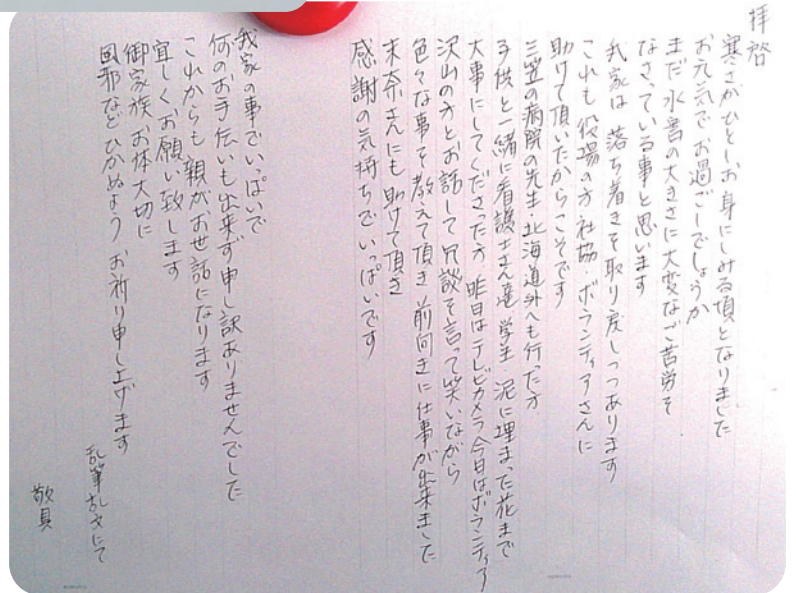
お礼

秋冷の候、皆様におかれましてはますます御清業のこととお喜び申し上げます。復興を目指している私どもにとって、連日のボランティアの皆様のご活動に、励まされ、支えられていることを、日を迫るごとに実感し、大変有り難く感謝の念に堪えません。

私どもの職員・児童の家も、床上・床下浸水が多数おりました。職員につきましては避難所の業務や、避難所になったことで大幅に教育活動の日程の組み直しが必要となり、対応に追われておりました。被災に対する皆様のご支援のおかげで、こうして業務に専念でき、被災個人宅の復旧の目処がたちつつあります。皆様にご心より御礼申し上げます。

学校の方は、避難所・診療所共に閉じられ、給食再開の目処も立って、ようやく平常に戻つつあります。

重ね重ね御礼申し上げ、末筆になりましたが、秋の長雨や寒さの中、私どもの復興を支えていただいております皆様のご健康を祈念申し上げ、ご挨拶にかえさせていただきます。



この他たくさんの方から
メッセージをいただきました。

④ 運営スタッフからのメッセージ

●南富良野町老人クラブ連合会（社協副会長）加藤 哲夫さん



私は、水害発生の翌日、我が社協事務所である福祉センターが、被害にあい様子を見に行きその時・多くのボランティアさんや自衛隊の方たちが、泥出し等に汗を流して戴いているのを見て、私も老骨ではありますが、少しでもお手伝いが出来ないかと思い、皆さんの足でまといになりながら、少し頑張りました。

また、ボランティアセンターにお手伝いに出て、受付と現地案内等の役割などをしましたが、そこで感じた事は、遠くから「手弁当・交通費」を自費で参加していただいていた方、数日寝泊りしながらボランティアに汗を流していただいた事、また、若い女性がオーバーオール、ヘルメット、ゴーグル等を身に付けて、床下の泥出しを自分の身をかえりみずドロドロになりながら汗を流して、いただいた事に感銘を受けた次第であります。

なお、ボランティアさんの中には、連日はもとより何回もきていただいた事、遠くは本州からの旅行者の方も参加していただいた事に、感銘を受けるとともにお礼を申し上げる次第であります。

最後になりましたが、関係機関の皆様、道社協の職員の皆様、また道内各地域の社協の皆様スタッフとして、連日お世話になった事にお礼を申し上げる次第であります。有難う。

●名寄市社会福祉協議会 小笠原 志朗さん



私が南富の災害ボラセンに初めて応援に行ったのが、立ち上げ直後の9月2日でした。

その後は、北海道社協との支援協定に基づき、名寄社協ができる応援として名寄社協の仲間達と南富で引継ぎをする形で帯での運営支援をさせていただきました。

ボラセンを開設した約1ヶ月半の期間、初めての経験からくる混乱や焦りなどもありましたが、その反面、たくさんのお会いや喜びもあり、それが被災した住民の笑顔にもつながっていたと思います。

日々変化する状況に、様々な分野の人達が手を取り合い対応していくことができたのも、南富のボラセンの強みだったかと思います。

自然災害は防ぐことができないことも多くあります。

しかし、その自然災害を最小限に防ぎ、起きたことを少しでも早く解決していくのは、マチを思う様々な人の気持ちや、つながり、笑顔なのだと思南富での活動や仲間達から教わりました。

そして、それを形にしていくのが、我々、社会福祉協議会の役割なのだと思います。

●南富良野町災害ボランティアセンター センター長 佐々木 之孝氏



これまで無くても、いつ、災害が発生してもおかしくない気象環境となっています。もしもの災害に備え自分の避難場所は何処なのか。最低でもこれだけは確認しておきましょう。

そして、災害 VC の運営は、本町の様に小規模な自治体では、町民だけの単独運営は全く不可能なため、町外からの多くの関係団体等の支援を受けなければならない。しかし、運営の要所は町民が務めなければならないため、町内のボランティア経験者等との連携が必要不可欠なので、日頃からの町内交流やリーダー育成に努めて下さい。

●南富良野町災害ボランティアセンター 副センター長 内田 誠治氏



自宅も被災し、自分だけではどうにもならないと感じボランティアセンターを立ち上げました。立ち上げ時は被災した住宅の泥をかき出すという事しか頭にありませんでした。ボランティアの受け入れ態勢や、資材、記録、運営スタッフ、資金など準備が足りなかったと反省しましたが、早期立ち上げに貢献できたことは良かったと思っています。その後、南富良野社協、地元 NPO 法人や有志と連携しボラセンを共同で運営することが出来さらに、地元在住の運営スタッフから地理的な知識を得られたり、被災者の警戒心を解いてくれたおかげで、迅速なニーズ調査など支援の手が広がりました。

小さな自治体では普段、行政に頼りすぎている部分があるのではないのでしょうか。非常時に民の力を動かすには人と人とのつながりが大切だとも思いました。

現在、日本には多くの災害復興支援の組織があり、特に今回災害支援プロジェクト会議より協力を得られたことは運営システム構築や様々な機関と連携をしていただいたり、アドバイスもいただき、過去の災害によって蓄積された知識や経験を提供していただいた事は大変助かりました。過去の災害復旧で苦労された方々に感謝いたします。

また、今回の水害が北海道特有の住宅構造に対する復興作業工程のマニュアル作成に役立つことを期待しています。

ボランティアの皆様、町を綺麗にさせていただいた事はもちろんですが、優しい言葉をかけていただいたり、作業の手順を教えていただいたり、言葉や行動で勇気づけられ、救われたという被災者の方が多くいました。もちろん、自分もその一人です。

北海道では今後集中豪雨などによる水害が増えるといわれております。関係機関、地域、個人でも防災、災害復旧の準備等進めていただくことを切に希望します。

●南富良野町災害ボランティアセンター WEB対応係・Omoidori Project 担当 西村 勇太氏



平時より、地域コミュニケーションを創り続け、自身の身を守る備えを高めておく事が減災に繋がる方法の一つと思います。

6

參考資料

【北海道新聞 2016年9月3日(土)掲載】

ボランティア本格始動

【南富良野】豪雨被害を受けた町は2日、町内の災害ボランティアセンターの活動や、一部決壊した空知川の堤防の修復作業が本格化するなど、復旧に向けた動きが少しずつ加速した。町によると、配水管の破損で断水が続く落合地区は、3日にも水道が復旧する見通し。



民家に流れ込んだ泥で汚れた畳を、屋外に運び出すボランティア＝2日午後2時55分

ボランティアセンターは、町社会福祉協議会と町内の有志で構成。2日は約50人が、民家に流れ込んだ泥やがれきの撤去作業などに励んだ。泥まみれの畳や家具を民家から運び出した

学校	休校していた南富良野小、南富良野西小と南富良野中、南富良野高は5日に再開する。南富良野小は体育館を避難所として継続して使う。小中高のスクールバスも5日に運行	南富良野中、南富良野高
保育所	町内2カ所の保育所は5日に再開予定	南富良野中、南富良野高
信金	旭川しんぎん南富良野出張所は、週末の3、4日も営業する。日とも午前9時～午後3時まで、現金自動預払機(ATM)と窓口を開設。通帳や印鑑を紛失した来客の引き出しにも対応する	両窓の
入浴	町は当面、被災者とボランティアを対象に、町内の温泉宿泊施設「かなやま湖保養センター」の浴場を無料で開放する。幾野地区、落合地区からそれぞれ無料送迎バスを運行	施設

町内の高校3年生、萬徳貴博さん(17)は「自分のマチの力になりたいと思った」と汗をぬぐった。開発局による堤防の修復は、決壊地点周辺に大型土のうやコンクリートブロックを搬入して仮の堤防を造成する作業が続いている。一方、落合地区は2日、避難所となった同地区多目的センターで7世帯17人が朝を迎えた。断水が続く中、自衛隊の炊き出しは2日昼で終了後、町役場から搬入される非常食に切り替わった。村上亨さん(61)は「水さえ通れば、洗濯や風呂など元の生活に戻れる」と水道復旧を待ちわびていた。同日午後7時現在、幾野地区の47世帯98人に引き続き、避難指示が出されている。町内2カ所の避難所に、避難指示対象地区以外も含め、59世帯79人が身を寄せられている。前日より5世帯10人減少した。(五十嵐俊介、岩崎あんり)

【北海道新聞 2016年9月11日(日)掲載】

ボランティア続々と

大雨被害の南富良野



泥を洗い流すなどの片付けを手伝うボランティア

【南富良野】台風10号による深刻な大雨被害を受けた町内には10日も、多くのボランティアが訪れた。災害ボランティアセンターによると、その数は266人に上り、泥が流入した住宅の清掃などを手伝い、「一日も早く元の暮らしに戻れるように」と願った。(石橋治佳)

泥を除去 住民「助かる」

民家で物置の片付けをしたい」と語った。別の家でた札幌市の会社員川信広 泥出しをした富良野市の団さん(54)は「雨が降りだした体職員月田菜奈さん(21)も、泥がすごい。通常「報道を見るよりよい」との生活に戻るのは大変だと地道なことでもできることと思うが、少しでも力になりたい」と話した。

団体職員女性(41)も「力仕事も手伝ってもらってありがたい」と話した。この日は国土交通省の光信紀彦・災害査定官らが町内で空知川の被災状況調査。光信災害査定官は「被害は非常に大きい。大雨に備えた、改良を加えた復旧が必要」と感想を述べた。町は午後5時、避難所2カ所を閉鎖、地区の自治会の自主運営とした。避難所でも支援物資を置き、日中は解放するが、落合地区多目的センターには午後5時現在、3世帯10人が自主避難している。

■南富良野町の支援者向け情報

町役場会計課 (午前8時半～午後5時15分)	振り込み先は、旭川信用金庫南富良野出張所 普通口座 1416252 口座名「南富良野町災害対策本部」※旭川信金全店の窓口での振り込み手数料はかからない
南富良野町災害ボランティアセンター	町民体育館。ボランティア参加希望、利用申し込みはいつでも☎080・5064・9913(午前9時～午後4時)

台風被害の南富良野、十勝へ

札幌発 広がる支援

ボランティアバスに20人

台風で浸水被害を受けた道内各地の支援活動が札幌圏で広がっている。札幌から十勝管内南富良野町までボランティアを派遣する「ボランティアバス」にはこれまで20人が参加した。ボランティアはボランティアバスを企画し、市民団体も被災地への支援金を募っている。

北富良野町内富岡(札幌市豊別区)サッカー部の約60人は18日、南富良野町内で畑や公共施設の泥の除去作業に当たった。畑は大木や土管、タヤ、洗濯機などが転がっていた。また、3年の高田斗志(18)は「泥が大量で、自然災害の恐ろしさと復旧の



十勝管内南富良野町の畑で、声を掛け合いながら泥を搬出する札幌圏内サッカー部員たち(同左横並び)

大変さを知ったと振り返る。3年の佐藤謙伸さん(17)は作業後、町民に「ありがとう」と言葉をかけられ、「大変さを知った。必要とされるなら、また来たい」と意欲を述べた。生徒たちが参加したのは札幌から毎日、同町に運行するボランティアバス。早朝に出発し、午前9時、午後5時、現地へ民家の清掃や畑の復旧を伝えている。バスを運行するいちごなまやボランティアエスの今野繁行社長は「札幌から多くのボランティアが訪れ、応援していると伝えているが、現地の人の力は大きいと断える。問い合わせは今野さん(011-5597-8980)へ。道内日本総協賛会支部などをつくる実行委も25、26の両日、札幌駅発着の上沼白の「浸水ボランティアバス」を行う。風災被害で途切れた宿

泊施設も応援しようと十勝管内清水町などで宿泊業を営む、同管内音節町の十勝川温泉に宿泊する。参加希望者は札幌日本ツアー(011-573-112)の札幌の北海道NPOから

「現地ボランティア」への活動支援金を募る。15、16日には札幌の中心部で街頭募金をし、これまでに約500名を集めた。「現地に行けない人も、寄付で応援して応援がほしい。」(本郷由美子)

ボランティアに参加する際の注意点

- ①活動の前日までに社会福祉協議会などでボランティア活動保険(天災タイプ)に加入する
- ②帽子、防じんマスク、長靴、雨具、手袋、タオルなどを用意する
- ③食事や飲み物、宿泊する場合は寝具などを自分で用意する
- ④けがや事故は自己責任

※南富良野町災害ボランティアセンターのホームページから

ボランティア 奮闘続く

南富良野水害から1カ月

延べ4500人泥出しや清掃 人手足りず協力呼び掛け

【南富良野】台風11号による大規模水害発生から1カ月、南富良野町内各地で泥出しや清掃作業が続き、人手不足が深刻化している。町民やボランティアの協力を呼び掛けている。町内では、町内産上り米の産地、水害被害を受けた南富良野町、被災者や高齢者、町内貧困、高齢者地区に住む高齢者の清掃作業がしつこく進んでいる。作業を全うしているのは、日本橋から体なな稼働している町民ボランティアバス。道内中心は約4500人が参加し、泥出しや清掃作業に当たっている。(記者 〇〇)

南富良野町の支援者向け情報

町役場会計課(午前8時半～午後5時15分)、無償の飲み水、旭川商工会議所南富良野町支部(1622)に問い合わせ

義援金受け付け
南富良野町災害ボランティアセンター
〒080-0001 南富良野町 町役場1階
受付時間: 午前9時～午後4時 ※10月2、3日は受け付けを休止

南富良野町災害ボランティアセンター
〒080-0001 南富良野町 町役場1階
受付時間: 午前9時～午後4時 ※10月2、3日は受け付けを休止

南富良野町災害ボランティアセンター
〒080-0001 南富良野町 町役場1階
受付時間: 午前9時～午後4時 ※10月2、3日は受け付けを休止



町民ボランティアバスは、町民やボランティアの協力を呼び掛けている。町内では、町内産上り米の産地、水害被害を受けた南富良野町、被災者や高齢者、町内貧困、高齢者地区に住む高齢者の清掃作業がしつこく進んでいる。作業を全うしているのは、日本橋から体なな稼働している町民ボランティアバス。道内中心は約4500人が参加し、泥出しや清掃作業に当たっている。(記者 〇〇)

町民ボランティアバスは、町民やボランティアの協力を呼び掛けている。町内では、町内産上り米の産地、水害被害を受けた南富良野町、被災者や高齢者、町内貧困、高齢者地区に住む高齢者の清掃作業がしつこく進んでいる。作業を全うしているのは、日本橋から体なな稼働している町民ボランティアバス。道内中心は約4500人が参加し、泥出しや清掃作業に当たっている。(記者 〇〇)

【北海道新聞 2017年2月21日(金)掲載】

台風で大水害の南富良野 「多くの支えで復興へ」



VCでの活動の様子を説明する内田副センター長

ボランティア活動報告会

【南富良野】昨夏の台風で大水害に見舞われた南富良野町で、これまで行われてきたボランティア活動の報告会が17日夜、情報ひろばで開かれた。町災害ボラン

ティアセンター（VC）発起人の内田誠治副センター長ら3人が活動経過を説明。「多くの支えで復興に向かっている」と話した。町社会福祉協議会が主催し町民ら約50人が来場。町社協によると、2月3日時点で、町内でボランティアに参加した延べ人数は5909人で、810回活動。このうち、昨年11月末までの個人での参加者約4千人のうち、44%が複数回参加。VCの立ち上げを運営を補助している一般社団法人ヘルド・デザイン（札幌）の篠原辰一理事長は「驚異的なリポート率。炊き出しなどでボランティアを支えようとする町民の力が強いおかげ」と話した。内田さんは、昨年9月1日のVC立ち上げ時なまを

振り返り、「人員や備品はゼロ。反省だらけのスタート」と説明。だが町民や職員の運営補助、町外団体の物資の支援もあり、「被災した人に寄り添い活動できた。小学生は水を配ってもらうと、被災者が笑顔になった」などのエピソードを

話した。NPO法人「どんくろ野外学校」職員の本多真志さんは、床上浸水被害などが出た落合地区でのボランティア活動について説明し、「たくさんの方の支えで復興に向かっている」と話した。（古市優伍）

【北海道新聞 2017年5月31日(木)掲載】



冬の休止期間を終え、4月29日に活動を再開したボランティア

【南富良野】昨夏の台風災害を受け設置された町災害ボランティアセンター（VC）が31日で閉所する。町民から依頼があったボランティア活動が完了したため。今後のボランティア仲介業務などについては町社会福祉協議会が引き継ぎ、必要に応じて行う。町災害VCは水害翌日の9月1日に設置され、町社協やNPO法人「どんくろ野外学校」、町民有志らで構成。ボランティアが必要な町民と参加希望者との仲介などを担ってきた。これまでに1807世帯から計446件の依頼を受け実施回数8223回。道内外から延べ5981人が参加し、土砂の撤去や家具の移動、清掃などを行ってきた。近隣他市町村のVCが2016年内に閉所した中、町災害VCは雪解け後の依頼に備え、冬季は休止していた。4月29日に再開し、町民から依頼があれば週末に活動していたが、今日14日に依頼を全て終えた。それ以降にも新たな依頼がなかったため、今月をもって閉所を決めた。立ち上げから関わってきた、内田誠治副センター長は「肩の荷が下りたが、復旧作業は続く。早く元の姿に戻ってほしい」と話す。どんくろ野外学校はボランティア参加者に感謝を込め「ありがとうラフティンク」を6月3日午前8時半から、町内の空知川で行い、小学生以上を対象に参加費千円。要予約。問い合わせは同法人 ☎0167・532171へ。

活動完了 きょう閉所

南富良野町災害ボランティアセンター

（古市優伍）

【北海道新聞 2017年6月4日(日)掲載】

水害支援 感謝の川下り

南富良野 ボランティア参加



【南富良野】昨夏の台風被害を受けた上川管内南富良野町への災害復旧支援に感謝しようと「ありがとうラフティング」が3日、町内で開かれた。NPO法人「どんころ野外学校」が主催し、町内のアウトドア5社が協力。災害復旧にあたった当時のボランティアら37人が参加し、水害をもたらした空知川で川下りを体験した。

参加者は7艇のゴムボートに分かれ、特に被害が大きかった町内落合―幾寅間川下りを体験する参加者。中州や川岸には流木が残る。川下りを体験する参加者。中州や川岸には流木が残る。13時を下った。ガイドの説明を受けながら川岸の流木や半分だけ残った橋などの「爪痕」を間近に見た。夕張市から参加した松村明秀さん(29)は「楽しかったが、災害の恐ろしさも感じた」。5月に閉所したボランティアセンターで副センター長を務めた内田誠治さん(43)は「何年か後にまた来て町で楽しんでほしい」と話していた。

【北海道新聞 2017年7月21日(金)掲載】

次は私たち九州へ恩返し

南富良野町職員ら5人ボランティア

福岡・朝倉で泥出し「今後も支援」

九州北部豪雨で甚大な被害を受けた福岡朝倉市は、20の町、上川内町連合会のボランティア5人がボランティアで被災者の泥出し作業を行った。同町は位置が全国で水害に直撃され、復旧作業がなかなか進まず、今年5月末までに片付かないところも人が参加。その恩返しの一環として、5人は福岡朝倉市を義援金として「お返しに泥出し」と作業に汗を流した。(撮影担当 菊池あかり、写真も)

町職員2人と町社会福祉協議会の役員3人が、そのほかボランティアも参加し、被災者の住居の泥出し作業を行った。同町は19日夜



中心部を流れる桂川の水位が急上昇し、街を襲い、死者や行方不明者はなかったが、多くの住宅が床上水被害を受けた。水が引いた後、梅木さん自身で床下の泥は取り除いたが、母にはまだ泥と泥がたまると悩む。5人は床上4畳ほど敷いた。梅木さんは「泥は流れていくからならないくらいは川。あの日は川の音が聞こえないほどの豪雨が数時間続いた。異変だった」と振り返る。梅木さんは当時、家に水が入ってきた際の隣の家の前に避難。夕方、田舎に住む娘や息子から電話が来て、怒から激涙を流すも「お返しに泥出し」とも、町議会議長を務める松本隆之助さん(57)は「昨夏の災害復旧の被災状況に似ている」と話す。新谷さんは昨年、床上水被害を受けた町を支援した。町議会議長の松本隆之助さんは「最初の段階は、まだ初期の段階。今後には、町議会のほうでも支援を考えた」と話した。

九州北部豪雨で甚大な被害を受けた福岡朝倉市は、20の町、上川内町連合会のボランティア5人がボランティアで被災者の泥出し作業を行った。同町は位置が全国で水害に直撃され、復旧作業がなかなか進まず、今年5月末までに片付かないところも人が参加。その恩返しの一環として、5人は福岡朝倉市を義援金として「お返しに泥出し」と作業に汗を流した。(撮影担当 菊池あかり、写真も)

2 ボラセン新聞

第1号 2016年10月27日発行

南富良野町災害ボランティアセンターからみなさんへ

南富良野町を襲った水害から約2ヶ月が経過しようとしています。気が付けば着実に迫りくる冬の追いかけっこ。まだ心の準備できてません…この2ヶ月の間に約5600名のボランティアさんが活動してくださいました。富良野沿線の市町村をはじめ、札幌、小樽、函館、釧路、網走、焼尻…道内各地から、秋田、青森、福島、東京、静岡、山梨、愛知、京都、広島、鹿児島と道外からも多くの方が駆けつけてくださいました。札幌からは9/4から10月末までボランティアバスを走らせてくれていて、これまでに500名を超える方がバスでやってきてくださいました。道内在住の外国人の方が声を掛け合い、各地から集まってきてくださったこともあります。また、物資や義援金、炊き出し支援やボランティア資金への支援、インターネットでの情報発信などそれぞれの形で支援してくださった方々、野菜を提供してくださった農家さんも。活動を通じて仲良くなったボランティアのみなさん。作業を通じて心が通った被災されたお宅のおとうさん、おかあさんとボランティアさん。ごはんを食べに行ったお店で居合わせて意気投合した住民とボランティアさん。わずか2ヶ月という期間にいる間になんとかつながりがありました。

誌名：(未定)
発行日：2016年10月27日
発行・編集：南富良野町地協おこし協力隊
ハットリリサ



いつかこの町は以前より強い町になり、ボランティアの力を必要としなくなる時が来る。それでも「ここで出会ったみんなとはどこかでつながっていたい」「南富良野という町とつながっていたい」そういう声をたくさん聞いてきました。ボランティアさん、地域住民、南富良野町を気にかけてくれている人、みんなの思いをつなげる「何か」を作りたい。みんなの思いが交い合う場所、モノ…それがなんなのかがまだぼんやりとしか見えませんが。



南富良野町
人口約2600名

ボランティアセンター開設から57日。これまでに活動してくださったボランティアさんは、5,643名。ボランティアさん向けに炊き出し支援いただいた回数は実に27回。今週末さらに80名前後のボランティアさんを受け入れる予定です。ボランティアセンターとは別に活動してくださった各種団体のみなさんも多数ありました。



災害ボランティアセンターの運営には、独立行政法人日本経済団体連合会(経団連)の「災害ボランティアセンターの運営」に依り、羽根共同募金の助成金を活用しています。

復興支援舞台『イシノマキにいた時間』
南富良野町公演のご案内
【日時】11月14日(月) 【開演】19:00
【会場】町民体育館(南富良野町字幾寅)
【料金】前売 800円 当日 1,000円
南富良野町民・高校生以下無料
※未就学児入場不可
【主催】北海道舞台塾ふらの実行委員会
【お問い合わせ】南富良野町教育委員会
TEL:0167-52-2145

8/31の水害発生直後から何度も何度も南富良野に足を運んでくださり、ドロドロになって泥だしをし、時には床下に潜り続け、ボランティアさんたちの頼れるリーダーとして活動してくださった福島カツシグさん。当初会場として予定していたのは保健福祉センターのみ。まっ先にみなくるに赴き、壊滅的な状況を目の当たりにしても「どうしても南富良野でやりたい」カツシグさんのその思いがこの公演に込められています。

福島カツシグ
1966年11月2日生まれ
大阪府出身
コメディアン?脚本家?演出家?俳優?
それとも床下作業の達人??
多彩な才能を多方面に発揮し、2011年に第4回WOWOWシリオ大賞を受賞した実力者。

★ **ボランティアセンターから被災された方へ**
★ 泥だらけになったアルバムや写真を復元します。
★ 一度水に浸かった写真はいつか必ず消えてしまいます。
★ そうなる前に一刻も早く思い出の救出を!
★ ボランティアセンターでは写真の洗浄、復元作業もおこなっております。
★ 濡れたままのアルバムや写真をお持ちの方は
★ お気軽に問合せください。

ボランティアセンターは10/17より町民体育館から保健福祉センターへ移転しました。ボランティアさんの受け入れはニーズに応じて活動日を限定しておりますが、被災された方からの作業依頼やご相談は平日も受け付けておりますので引き続きご利用ください。
【お問い合わせ先】
TEL 080-8295-6573
11月の活動は毎週土曜日です

みなみふらの **復興まつり** まつり
2016年11月3日(木・祝) 入場無料
12:00・19:00 南富良野町民体育館

ライブあり、グルメあり。
富良野出身の演歌歌手・石上久美子さんのステージも。
全国ご当地バーガー時代日本一、新・ご当地グルメグランプリ殿堂入りの「別海ジャンボホタテバーガー」、おが富良野町の新・ご当地グルメ「富良野エゾカツカレー」の販売もあります。
地協おこし協力隊も出店します。

ボラセン新聞

FROM

南富良野町災害ボランティアセンター

災害ボランティアセンターの運営には赤い羽根共同募金の助成金が活用されています。

11月に入り、南富良野町は一面雪に覆われました。断熱材を撤去したままのお宅、床を剥がしたままのお宅もまだあるのに雪はすべてを白く覆い尽くし、まるで何事もなかったかのように現実を隠してしまふ。せめてもう少し、できることをできるだけ。人手があるうちに少しでも…外での作業ができない冬の期間ぐらひは被災された方もゆっくりと体を休めてもらえよう、少しでも作業を進めておきたい。ボラバスの運行が10月末で終了したにもかかわらず、札幌や小樽、旭川、千歳など遠方からもたくさんのボランティアさんが雪道を運転して南富良野へ通ってくれています。雪の中、できる作業は限られていますが、11月も毎週土曜日はボランティア活動継続中です。



あの時と変わらぬまま雪が積もる場合…



仮住まいのお宅から元の自宅へ家財道具の移動。



一日中雪が降り続ける中、屋外でみくるの椅子の分解、洗浄作業。何重に洗っても取れない泥が出てくるので分解してあたらしく、パイプの中に泥水が入りました。



国道から見える風景では少しづつ復興が進んでいるように見えますが、一歩入ってみると、公営住宅にはずらりと並んだスーパーハウスの家財道具を一時移動させるために手配されたもので、内部の修繕が終わっていないことを物語っています。

11月初旬、床板を剥がしたままの公営住宅。まだ修繕が終わっていない個人宅も…。いつもの生活に戻るまでまだまだ時間がかかります。



浄化センター職員さんから伺った話です。南富良野町の浄化センターは堤防が決壊した空知川上流域に位置しますが、土が高く盛りだくさんだったため、幸うして浸水は免れました。もし浸水していたら、幾度の下水道は使用不可となり、トイレが使えなくなっていたところでした。災害直後、落合地区では断水が、北落合地区では停電が長く続き、こうして災害があつてはじめて私たちは当たり前のことだつたり前ではないことを思い知ります。



10月半ば、カーン関係者、アウトドアガイドを中心にかなやま湖に流れ着いたままのゴミの回収作業を。タイヤやドラム缶など、大きなものがたくさん回収されました。

■ 地域おこし協力隊ハットリよりワークショップのお知らせ

自分だけのオリジナルカラーでプリントできる「Tシャツとトートバッグ作り」

「そば粉のお好み焼きを作って食べる会」します

日時：11/27 (日) 10:00～14:00 落合多目的センター

★Tシャツ (キッズサイズ130、150、S、M、L) 800円

★トートバッグ (小) 600円 (大) 800円

予約は不要ですが、お好み焼きは食材に限りがあることをご了承ください。

落合にお住まいの方以外もご参加いただけます。

お問い合わせは役場企画課：0167-52-2115 (地域おこし協力隊ハットリ) まで。

南ふらの復興まつり大盛況でした

11/3 (祝) 町民体育館で開催された南ふらの復興まつり。歌あり、お笑いあり、体験コーナーあり、グルメありと盛りだくさん。朝から雪が降り続く悪天候にも関わらず、町内外から、またボランティアさんも大勢足を運んでくれました。被災された方もボランティアさん、こどもも大人も一同に会し、体育館にはたくさんの笑顔と笑い声が。ボランティアさん同士、作業に入ったお宅の方とボランティアさんが再会を喜ぶシーンも見られ、あつたかい気持ちになりました。



南富良野町赤十字奉仕団

炊き出し支援をいただいた各種団体、企業様をご紹介します。(順不同、敬称略)

写真以外にも下記のみならず、あたたかいご支援をいただきました。ありがとうございます！

- ・上富良野町赤十字奉仕団
- ・ライオンズクラブ国際協会331-B地区 留明みなとライオンズクラブ
- ・天理教 幾寅分教会 (町内)

スーパリー 奥芝商店 (札幌市、新十津川町) <http://okusyo.com/>

富良野オムカレー推進協議会 (富良野市) <http://www.seizanfarm.com/>

Cafe & Restaurant すぷらうと (富良野市) <http://www.cafe-restaurant-sprouts.com/>

南富良野町商工会

(有) とみ川 (富良野市) <http://www.furanotomikawa.com/>

東北関東大震災支援隊本部「BOND&JUSTICE」(東京都) <http://bond-and-justice.com/>

ライオンズクラブ国際協会331-B地区 富良野ライオンズクラブ

南富良野エゾシカ料理推進協議会 (町内)



12月に入り、ボランティアの活動内容は仮住まいのお宅から元の自宅への引っ越しに伴う家財道具の運搬や掃除・消毒作業がメインとなってまいりました。何とか年内には被災された方が元の自宅に戻れるように、幾度かは西町町内有志のみならずと一般ボランティアと一緒に作業をしていただいています。このように地域と連携して作業ができるようになってきたのはひとつの復興の形としてとても喜ばしいことです。

みなくんで泥水に浸かった椅子や机の洗浄は、座面と背板を外しパイプに入り込んだ泥水を出して水洗いして消毒していましたが、作業中に水が凍ってしまう気温となり一時中断せざるを得なくなりました。写真保全作業については現在も継続作業中です。

写真保全作業は登録ボランティアとは別で平日も活動しております。詳細は Omidori project で検索してみてください。

ポテトチップス工場「シレラ富良野」12/1操業再開!

8月末の災害で工場1Fにおいてあったすべての機器が浸水しました。被害総額は12億円。湖池屋さんのご協力なども得ながら機器を総入れ替えし、壊滅的な状況からわずか3ヶ月というスピードで12/1の再開を迎えました。



▼12/1 安全新観察が行なわれました。

農家さん、従業員の方をはじめシレラ富良野に関わる方々、湖池屋さん、復旧作業にあたっていただいた方々、心配や応援をいただいた方々の方々の思いもったカラムーチョ、せひみなさんへ手に取っていただき!!



★湖池屋さんより目撃情報★
この2品の上は、1袋あたり1円を日本赤十字社北海道支部の活動資金として寄付されるそうです。買って食べるのが支援につながります。

ボラセン新聞 (第3号)

FROM 南富良野町災害ボランティアセンター

※裏面では、企業や団体で参加していた方々を紹介しています。

ボランティアセンター開設以来、11月末までに活動していただいたボランティアさんの総数... **5,828名**

8/31未明の災害を受け、9/1に当ボランティアセンターが立ち上がりましたが、まったくと言っていいほど資材のなかったこの町。そこへ「いかに被災支援ネットワーク」の方が活動に必要な資材を手配してすぐに送っていただきました。スリッパ、モップ、一輪車、道具を洗うスポンジ、ビニールシート、土嚢袋などの様々な資材。これらがあったからこそこれまで作業を続けてこられました。ボランティアセンターも縮小し作業内容も変わってきたので、お借りしていた資材はボランティアさんとともに感謝の思いをこめてひとつひとつ丁寧に洗浄し、11月下旬無事に新潟にお返しすることができました。もしもまた次にどこかで災害が発生したらこれらの資材が被災地で活用されます。この資材たちがみなさんの思いをつないでいくのです。



▲トラックいっぱい資材も無事新潟の倉庫に取られました。ありがとうございました。



ボランティアさんたちがあがりたう気持ちと次にこの資材を使う時が来ないよう願いを込めてメンテナンスして入りました。

ボランティアセンターから住民のみなさんへ

ボランティアセンターでは、明後日共同募金会や各企業様、個人の方から提供いただいた資材の貸出も行なっています。

貸出可能なもの... 高圧洗浄機、電動ドライバー、サーキュレーター、延長コード、ドライバーセットなどの工具類、ホースリール、ヘルメット、二輪車、バケツ、住居用洗剤、ウエスなどの清掃用具類

ご自宅の修繕作業に必要なものがありましたらお気軽にお問合せください。

【お問い合わせ先】
TEL 0167-39-7711
(南富良野町社会福祉協議会)

お問い合わせ受付時間: 月～金 9時～17時

「なんぶ〜香房 森のパン屋」さん 12/3(土) 営業再開!

道の駅南ふらのに隣接するパン屋さん「なんぶ〜香房 森のパン屋」さんも営業を再開しました。130cmほど浸水し水がひいた後のお店は、ガラスは割れ、床には30cmも堆積した泥、使えなくなったオープンや冷蔵庫、パン作りのための機器...。そこから3ヶ月かけて機器を入れ替え、店内もすっきり元通りに。障害のある方の働く場でもあるこちら、予定通り再開されるまでには見えないで苦労がたくさんあったと思います。事業所長さんの「お金も必要だけど、やっぱり人の手が必要!」の言葉が胸に響きました。

12/3〜5は営業再開を記念してセールが開催され、この日を待ち望んでいた多くのお客様でにぎわいました。久々の焼き立てパンの香りが漂う店内で、お客様、従業員の方、関係者のみなさん、たくさんの笑顔に出会えました。



▲オープン前の店内で行われたセレモニー

★食べることも大好きハットリ野の森パンさんのおすすめBEST3★

- 1位 塩バターブレッド 180円
- 2位 木の葉のクッキー 150円
- 3位 アップルデューシー 160円

※お客さま100%のハードル。ほんのり甘くて好きなのはおいしい。チョコシユの王道。みんなが引立てる特別なカスタードが絶妙。おまんこも引立てるおまんこ入りのパンも売っててください。

地域おこし協力隊ハットリ野おしらせ 地域食堂@落合多目的センター開催します。

冬休みの子どもたちも年末も多忙なおとなも落合多目的センターに集合! 南富良野町の食材を使ったメニューでみんなでお昼ごはんを食べよう! 当日は、おしゃべりラウンジとソファの肉のかわり、そして地域の食材のここのを知るきっかけを用意してお待ちしております。落合にお住まいの方もぜひお越しください。

■日時: 12/29(木) 11:30~13:00
■場所: 落合多目的センターロビー
■高校生以下と65歳以上の方は無料/おとな200円
※食材準備の都合上、12/27(火)までにお申し込みいただける助かります。

お問い合わせ先: 0167-52-2115 (役場企画課)
地域おこし協力隊ハットリ野まで。

ボランティア活動にご参加いただいた各種団体、企業様を紹介いたします。(順不同、敬称略)

- ※こちらは、南富良野町災害ボランティアセンターで受付をさせていただいた方々のみです。
- ・連合北海道 上川地域協議会
 - ・上川総合振興局 北部耕地出張所
 - ・留萌振興局
 - ・自治労上川地方本部
 - ・自治労富良野市労働組合連合会
 - ・自治労名寄市職員労働組合
 - ・自治労占冠
 - ・富良野市役所
 - ・上富良野町役場
 - ・占冠村役場
 - ・和寒町役場
 - ・当別町役場
 - ・上川町役場
 - ・空知川上流土地改良区
 - ・深川消防職員協議会
 - ・砂川消防職員協議会 ユース部
 - ・鷹栖町有志
 - ・空知川下流域有志
 - ・医療法人道北勤労者医療協会
 - ・公益社団法人北海道勤労者医療協会
 - ・北海道民主医療機関連合会
 - ・エチ・EM・メ・ケル協同組合
 - ・旭東林産協同組合
 - ・北海道労働組合総連合
 - ・和寒町社会福祉協議会
 - ・鷹栖町社会福祉協議会
 - ・紋別町社会福祉協議会
 - ・当麻町社会福祉協議会
 - ・若見沢市社会福祉協議会
 - ・旭川市社会福祉協議会
 - ・美瑛町ボランティアセンター
 - ・旭川NPOサポートセンター
 - ・社会福祉法人砂川福祉会
 - ・NPO法人なないろニカラ
 - ・あさひかわ商工会
 - ・滝川青年会議所 有志の会
 - ・富良野市訪問看護ステーション
 - ・富良野協会病院 有志
 - ・HAJET
 - ▼とわの森三愛高等学校
 - ・災害支援くろネットワーク
 - ・災害救援ネットワーク北海道
 - ・NPO東京災害ボランティアグリーン・グリーン
 - ・ウィルダネススクワッド
 - ・三岔カヌークラブ
 - ・旭川カヌークラブ
 - ・若見アドベンチャースポーツクラブ
 - ・NPO法人シムライ湖ワールドセンター
 - ・富良野倶楽部
 - ・ふらのアルペンJr.
 - ・少林拳法 石狩花川
 - ・ボイスカウト北海道連盟
 - ・北海道YMCA
 - ・少林拳法 富良野光明寺道院
 - ・愛・つなぐプロジェクト
 - ・そらちライオンズクラブ
 - ・新日本婦人の会 富良野支部
 - ・旭川友の会
 - ・南富良野町赤十字奉仕団
 - ・南富良野町高齢者大学 千里大学
 - ・上川神道青年会
 - ・宗教法人 天照教
 - ・天理教青年会 富良野支部
 - ・天理教 よもと会
 - ・天理教 小樽支部
 - ・北海道第二教区浄土宗青年会
 - ・末日聖徒イエスキリスト協会ヘルピンズ
 - ・チーム今野
 - ・小泉研究室
 - ・東北大好き隊
 - ・一般社団法人全国哥倫会北海道支部
 - ・JAふらの
 - ・株式会社レイドバック
 - ・株式会社ブレナイ社
 - ・株式会社ウッドワーク
 - ・JTB北海道労働組合
 - ・ツムラ労働組合
 - ・旭川トヨタ労働組合
 - ・まちの整骨院
 - ・LIN COFFEE
 - ・株式会社ノムラ
 - ・株式会社スポーツピア
 - ・有限会社アルパイン計画
 - ・北洋銀行 富良野支店
 - ・旭川信用金庫
 - ・日本郵便株式会社 北海道コンプライアンス室
 - ・日本郵便株式会社 上川地区局長会
 - ・清水建設株式会社 北海道支店
 - ・株式会社北海道日本ハムファイターズ
 - ・トヨタ自動車株式会社 土別試験場
 - ・カルビー株式会社 北海道事業部
 - ・ヤマトルー



▲株式会社クワイティブオフィスキュー



▲株式会社生活プロデュース



▲シチズンタ張株式会社

南富良野にたくさんのパワーと笑顔がありがとうございました!!

「南ふらの農産処理加工センター」
12/9操業再開！！

床上120cmほどの浸水で大きな被害を受けた「南ふらの農産処理加工センター」も年内に操業再開しました。農産物の収穫の時期が復旧にあてられたため、今シーズン（「パタジャ」）のみの生産ですが、南富良野のお土産のトップ選手「パタジャ」が全道各地、本州に向けて出荷され、待っていている人のところにまた届くのはうれしい限りですね。3ヶ月ぶりに手にした「パタジャ」の重み、しっかりと感じました。



～パタジャが簡単アレンジレシピ～
パタジャがキムチ

【材料】パタジャが…1個、キムチ…好きな量、冷蔵庫にある余り野菜、きのこ、豚肉などお好みのものをお好みの量で。
【作り方】パタジャを食べやすい大きさにカットする。肉と野菜を炒め、火が通ったらキムチパタジャを入れて軽く合わせる感じでさっと炒める。器に盛り、刻み海苔や葱、ごまなどを散らして完成。きのこや豚肉、余った野菜なども一緒に炒めればボリュームも出て、白いごはんともお湯とも相性バツキです。



パタジャがそのままでも食べられる優秀な商品ですが、せっかくなのでおいしい食べ方をご紹介します。面倒でも湯煎でじっくりあたためて食べてください。いも本来の甘みにじわ〜とバターが広がって、レンジでチンするより格段においしくなりますよ。ぜひお試しください。

農産物直売所「作倶楽（さくら）」の公式サイトができました

下山山地区にある「作倶楽（さくら）」は下山山で生産された多くの野菜や果物を取り扱っている直売所です。2016年の営業は終了しておりますが、オンシーズンには色とりどりの多くの野菜や果物が並びます。ふるさと納税返礼品や生産者さんの紹介ページなどもありますのでぜひご覧ください。

農産物直売所 作倶楽（さくら） <http://sakura831.com/>

写真保全作業ボランティア Omoitori project ってどんなことなの？

一言でいうと、泥水に浸かった写真やネガの修復と救出作業です。写真を1枚1枚アルバムからはがしてカビや泥を洗浄し、トリミングを行ない、その後再度除菌と乾燥を繰り返したら、iPhoneを使って写真を撮影し取り込んだものをデータ化して持ち主にお返ししています。この作業はとても時間のかかる繊細な作業ですが、持ち込まれた思い出の写真をなんとかお返ししたいと今も作業を続けてくださる方がいます。

詳細は [Omoitori project](#) 写真保全作業は登録ボランティアとは別で活動しております。

ボラセン新聞 (第4号)
FROM
南富良野町災害ボランティアセンター

発行日:2016年12月23日
発刊・編集:南富良野町福祉協議会 佐藤 浩一 山本 浩二



年頭のご挨拶を申し上げます。
南富良野町にとって明るい復興の年となりますよう祈念いたします。



幾寅地区公営住宅の修繕状況について
なんと今年内に終了してみなさんが元のお宅で年を越せば…そう願いましたが、やはり予定どおりに進むことができては、年が明けてからようやく修繕作業に入る住宅もあります。車庫から修繕の終わった住宅へ家財道具の移動や家具の洗浄・消毒作業など、12月中旬まで登録ボランティアと幾寅西町町内会の有志のみさんが一緒に作業をしてくださいました。2017年の活動はこれから修繕に取りかかるお宅での作業などが中心となります。

1月のボランティア活動日は
1/14(土)1/21(土)1/28(土)を予定しています。
ご相談やお問い合わせは
南富良野町福祉協議会:0167-39-7711
までお寄せください。(平日8:30~17:15)

災害ボランティアセンターの運営には若い羽根共同募金の助成金が活用されています。



第2回落合地域食堂開催のお知らせ

- 日にち: 2017/1/28 (土)
 - 時間: 11:00~14:00
 - 場所: 落合多目的センター
- 高校生以下と65歳以上の方は無料
おとな200円

地域の食材を使ったメニューを用意してお待ちしております。ご希望の方には当日のレシピもお渡しいたします。落合にお住まいの方以外もお気軽にお越しください。

【お問い合わせ先】
0167-52-2115 (役場企画課)
地域おこし協力隊ハットリまで。



南富良野の冬のレジャー
といえば…

かなやま湖でのわかさぎ釣り！
一面水で覆われた冬のかなやま湖の景色は一見の価値あり。釣ったわかさぎをその場で天ぷらや唐揚げで食べるのも北海道ならではの楽しみですね。ほかに町内では犬ぞりやスノーシューでの雪山歩きなどのレジャーもできます。アウトドアが好きな町、南富良野ならではの冬を楽しんでください。

【特集】数字で見るボランティア

9/1のボランティアセンター開設時から11月までの参加者5846名を47都道府県別に、さらに道内参加者は179市町村別に集計しました。

	9月 (30日)	10月 (18日)	11月 (7日)	合計
北海道内	4306	1173	90	5569
道外	216	61	0	277
合計	4522	1234	90	5846

※単位:人
※月の()内はボランティア活動日数

●道外からの参加者

- ※()内は活動者の人数
- 東京都 (54) 神奈川県 (44) 千葉県 (39)
 - 埼玉県 (29) 静岡県 (17) 大阪府 (15)
 - 愛知県 (9) 京都府 (8) 秋田県 (6)
 - 茨城県 (6) 山梨県 (6) 奈良県 (6)
 - 新潟県 (4) 三重県 (4) 山形県 (3)
 - 福島県 (3) 長野県 (3) 岐阜県 (3)
 - 兵庫県 (3) 広島県 (3) 福岡県 (3)
 - 岩手県 (2) 群馬県 (2) 滋賀県 (2)
 - 鹿児島県 (1) 青森県 (1) 宮城県 (1)
 - 栃木県 (1) 石川県 (1) 熊本県 (1)

- 参加者の最高年齢: 81歳
- 参加者の最低年齢: 5歳

●リピーターさん率: 44.10%

※リピーター率のデータは個人ボランティアさんのみ。団体で活動していた方には含まず。

- 参加団体数: 191団体
- 団体参加者数合計: 1853名
- 述べ活動回数: 801回
- 実依頼者数: 184件
- ボランティアニーズ (依頼) 総数: 418件

実に半数近くの方が2回3回と通ってくださったリピーターさんです。中には20回30回と、今なおお通のたびにこの町に通ってくださる方がいらっしゃるのです。



早朝5時に札幌を出発して19時頃に札幌に到着というハードスケジュールにもかかわらず、たくさんの方が通ってくださりました。

- 「いのちをつなぐチャリティマルシェ」さんが運行するボランティアバスでの参加者: 575名
- ※運行期間: 9/4~10/16は連日、ボランティアセンター縮小後は活動日に合わせて10/22(土)10/29(土)10/30(日)となり、運行日数は全44日間にのぼります。

【参考情報】
南富良野町へのボラバス運行のために全国各地の方から「いのちをつなぐチャリティマルシェ」へ寄せられた寄付金について

寄付金総額: 5,367,933円
バス代総計: 4,010,144円
寄付残金: 1,357,789円

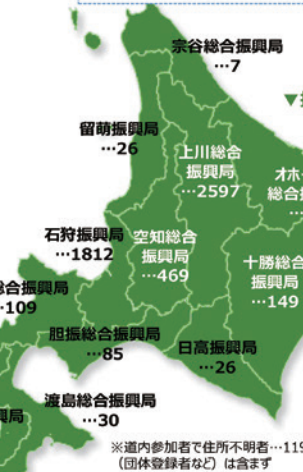
※残金は南富良野町の復興のために、災害支援金として町に寄付をいただきました。災害支援金は、義援金として町民にというのではなく、これから様々な費用負担が発生する町の再生に使われるものです。



センター開設から4日というスピードで南富良野へ毎日バスを走らせていただきました。

道内179市町村別参加者の多かった市町村

市町村名	人数(人)
1 札幌市	1466
2 旭川市	800
3 富良野市	717
4 南富良野町	424
5 上富良野町	114
6 岩見沢市	108
7 江別市	97
8 占冠村	96
9 滝川市	95
10 千歳市	91
11 南富良野町	76
12 鷹栖町	62
13 東川町	61
14 帯広市	59
15 釧路市	57
16 小樽市	51
17 砂川市	49
17 石狩市	49
17 恵庭市	49
20 北広島市	46



2/17 (金) 住民向け活動報告会を行いました

災害から半年を迎える前に、あのボランティアセンターでは何をしていたのか、どういった人たちが関わっていったのか、今一度地域のみなさんと私たちが一緒に振り返る場を設けた、南富良野町災害ボランティアセンター活動報告会を開催しました。

報告者①：南富良野町災害ボランティアセンター副センター長 内田誠治氏
報告者②：NPO法人ふたご野村学校 本多貴子氏
司会者：台風、10号災害被災者支援活動AD/ハイパー、一般社団法人 Welbe Design 理事 篠原辰二氏



住民の方からボランティアさんへのメッセージもたくさんいただきました。メッセージはボランティアさんにご届けますので、もう少しお時間をください。
このほかにも、南富良野町災害ボランティアセンターと関係各所との連携をはかるため、南富良野町復興協議会として情報共有会議をこれまでに8回行なっております。



悪天候の中、地域の方や関係各所の方など55名の方にお集まりいただきました。
まずは、篠原氏よりボランティアセンター運営の仕組みや関係各所の組織についてわかりやすい解説があり、続いて内田氏、本多氏によるそれぞれの立場、それぞれの目線での報告がありました。私たち関係者も今までただ前だけをみて進んできまして、当時の状況や思いを改めて振り返る機会にもなりました。「わかりやすい言葉で報告してもらえよ」という声も聞かれました。「ボランティアさんの役割がよくわかり意義深かった」「ボランティアさんの力が住民さんの原動力になっていることを改めて感じた」といった感想も寄せられました。

3/12 (日) 今年も南富良野スキ一場に「絆」の火文字が灯りました

東日本大震災への追悼の意を込めて始まった南富良野火文字。3.11から6年目となる今年も火文字を灯しました。あの水害から半年、復興への願いと希望、そして皆さんのエールをありがとうございます。感謝をこめて今年の火文字は「絆〜がんばろう!〜」でした。

当日はたくさんの方の参加、関係者のみなさまのご協力とご尽力により、子どもたちの笑顔と美しい声が絶えないうちになりました。ボランティアさんの中には町外から会場まで足を運んでくださった方や翌日の情報番組で放送されたものを録画してくださった方もあったようで、今もお気にかけてくださっている方が多いのを感じます。

これまでに活動に参加していただいたボランティアさんへ大切なお願い

ボランティア活動の有効期間は年度末までとなっております。4/1より活動していただくにあたり、改めて保険へのご加入をお願いいたします。活動日の前日まで居住地域の社会福祉協議会にてボランティア活動保険へのご加入手続きが必要となりますので、ボランティア活動へのご参加を予定されているみなさまはお早目にお手続きをお願いいたします。
南富良野町災害ボランティアセンターは、4/29(土)から活動再開を予定しております。万が一のけが、事故などから自身を守るためにもご加入をお願いいたします。



ボラセン新聞 (第5号)

南富良野町災害ボランティアセンター
ボラセン新聞の発行は、南富良野町災害ボランティアセンターの活動の記録として発行されています。

発行日：2017年3月27日
発行・編集：南富良野町地域おこし協力隊
ハットリリヤ

長かった冬も終わりを迎え、日ごとに春の訪れを感じる今日この頃。雪がたけたら目につくところも出てくるかと思いますが、みなさんの住宅、車庫などに気になる箇所はありませんか？

南富良野町災害ボランティアセンターでは、被害にあわれたみなさまにセルフチェックをおすすめしております。下記の手チェックリストを参考に確認してみてください。また、修繕や作業に必要な資材・備品も貸し出してしております。ご自身で対応できない場合には、お気軽にボランティアセンターにご相談ください。

カビ・汚泥・被害の跡はありませんか？ ☑ わが家の状態チェックリスト

※ボランティアさんによるお手伝いを希望する方は、ご連絡ください。



災害ボランティアセンターの備品をお貸しします

(災害によって影響を受けた皆様の生活を支えることを目的に無料で貸し出すものです)

高圧洗浄機 屋外・外壁の汚れ落とし	噴霧器 消毒液の散布用に	送風機 床下・部屋の乾燥用に
乾湿両用掃除機 砂ぼこり等の掃除用に	工具類 ドライバややわばるなど	掃除用品 デッキブラシや雑巾など

※この他にも様々な道具があります。詳しくはお問い合わせください。
※被災されたご家庭のみならず、町内会単位でもお貸しできます。
※これらは、赤い羽根共同募金の配分を受け、災害ボランティアセンターが購入したものです。

重要
今年度のボランティア活動は、4/29 (土) から開始予定です。
ボランティアのご依頼は、4/21 (金) までにご連絡をお願いします。

お問い合わせ先 南富良野町社会福祉協議会:0167-39-7711 (平日8:30~17:15)

**南富良野町災害ボランティアセンター
閉所しました**



ボラセン新聞 (第6号)

南富良野町災害ボランティアセンター

発行日: 2017年6月13日
発行・編集: 南富良野町地場おこし協会 ハットリリヤ

災害ボランティアセンターの運営には赤い羽根共同募金の助成金が活用されています。

平成28年台風10号の大雨による水害に際し、物心ともに多くの方々からのご支援ありがとうございました。全国各地よりお集まりいただいた多くのボランティアのみなさま方のご協力によりまして、支援依頼件数187件の作業が完了となりましたので、5月31日をもちまして南富良野町災害ボランティアセンターを閉所いたしました。ボランティアのみなさま方をはじめ、ご支援いただきました全ての関係者並びに各機関の方々へ厚く御礼申し上げます。
6月1日以降は、南富良野町社会福祉協議会にて被災された方々の復興支援活動を展開してまいります。お問い合わせ・ご相談は、南富良野町社会福祉協議会：0167-39-7711までお寄せください。
最後になりますが、町全体の復興にはまだまだ時間がかかりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



▲最後の活動日となった5/14 全道各地から参加してくださったみなさんと

これまでの活動について

- 実依頼件数：187件
- ボランティア依頼総数：446件
- 延べ活動回数：823回
※写真洗浄活動を除く
- ボランティア受け入れ状況
延べ活動者数：5,981名
- 炊き出し支援回数：27回

写真洗浄Omoidori Project
依頼件数：11件
活動期間：9/15～5/31
(全件完了)



運営スタッフより

9ヶ月という期間をこらして振り返ってみると、長いようであつという間だったような気がします。これまで大きなトラブルや事故もなく当センターを運営してこられたのもみなさまのおかげです。みなさまのパワーと笑顔に何度も何度も励まされ、私たちも前を向いて進んでこれました。本当に感謝の言葉しかありません。ありがとうございました！！

5/14 (日) 依頼案数全件完了!



◀泥水に浸かった椅子は分解し高圧洗浄機を使って洗浄します。作業に使う機材もボランティアさんが持参してくださいました。



5/14 (日) 集合時間の気温は4℃、落合地区では朝から霧雨が降る中での活動となりました。この日のメンバーは、札幌や旭川、帯広をはじめ、遠くは釧路市や別海町、蘭越町からも参加いただいた18名のみなさんと運営スタッフ4名。落合地区と幾寅地区に分かれ、個人宅の泥だしや土のう積みなど計6件に加え、みなくで泥水に浸かった椅子の洗浄まで、残っていた依頼をすべて終了することができました。自然の力の脅威を思い知った災害でしたが、人の力はそれよりも偉大ということ改めて実感しました。

4/29 (祝) 今年度初の活動日

幾寅西町河川敷に漂着したゴミの回収、個人宅の泥だしなど活動件数全4件



▼みんなで行ったいたあたがたいジギスカン丼



当日は、道外からの参加者も含めた登録ボランティアさん31名、南富良野町住民26名と57名の方がお集まりくださいました。薪が入ったまま流れ着いていた物置小屋や灯油が入ったままのタンク、たくさんのタイヤなどトラック10台分のゴミを撤去することができました。また、この日のお昼には「奥芝商店新十津川店」さんによる炊き出しもありました。災害直後から何度も炊き出しに来ていただいた奥芝商店さんですが、この日はお店をお休みにして2名で駆けつけてくださいました。新十津川町の「大島精肉店」さんの味付ジギスカンを使用したジギスカン丼に町内の農家さんからご提供いただいたじゃがいもをスパイスのきいたフライドポテトにして添えてくださいました。このような炊き出し支援をたくさんいただいたことも当センターの特徴と言えます。
午前中の晴天とは打って変わって午後からは冷たい雨の中での作業となり、汗をかいた身体が冷えて過酷な状況の中、手を付けたところだけは片付けようと思いをかけ合いながら作業していただきました。



▼手の感覚がなくなるほどの寒さの中での作業



6/3 (土) 『ありがとうラフティング』開催されました

★「昨年9月からこれまで南富良野町の復旧のためにボランティア活動にご参加いただいたみなさまに感謝の想いを伝えたい」その想いからNPO法人どころ野外学校と落合地区で活動するアウトドア業者5社協力のもと開催された『ありがとうラフティング』。空知川を落合から幾寅へ下る全13kmのコースを、道内各地からご参加いただいた38名のみなさんを7艇のボートに分かれて町内のガイドさん7名でご案内し、川から見る現在の南富良野町と災害の爪跡を感じてもらいました。この町で自然を相手に仕事をしているガイドさんたちの想いもみなさんに伝わったのではないのでしょうか。



◆南富良野町災害ボランティアセンターからのお知らせ◆



●復旧作業のお手伝いをしています！

＜お手伝いの内容＞

- ・室内外（床下・庭・花壇など）の泥のかき出しや清掃
- ・家具の移動
- ・住宅（床・壁・家財道具など）の清掃作業、消毒作業
- ・思い出の品（アルバム・記念品など）の洗浄作業
- ・作業用品の貸し出し



※その他の作業依頼についてはご相談ください！

※ご依頼の際は裏面の『ボランティア依頼票』にご記入の上、町民体育館へお持ちいただき、下記連絡先までお電話ください。

●衣類・毛布・タオルなどがあります！



全国から届いた支援物品を町民体育館にてお預かりしていますので、必要なものをご自由にお持ち帰りください！

＜衣類・毛布・新品タオル・ぞうきん・マスク・軍手・日用品各種等＞
※数に限りがあります。

◆ご依頼・お問い合わせ先◆

南富良野町災害ボランティアセンター

仮設事務所：町民体育館内（開館時間：8時～17時）



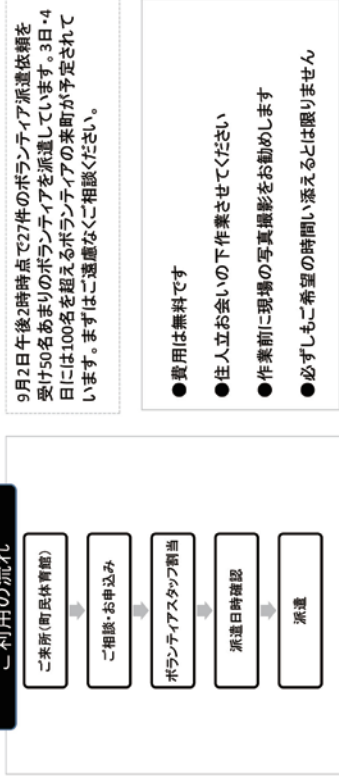
TEL - - - - (受付時間：8時～16時)

お手伝いさせてください
【南富良野町災害ボランティアセンター】
お手伝い内容

- ☆泥のかき出し、片付けのお手伝い
- ☆畳、家具等大きい物や重たい物の運搬など
- ☆流れてきた大量の土砂・ごみ・人參
- ☆地下室にたまった泥洗浄

3～4人チームでお
手伝いいたします

ご利用の流れ



南富良野町災害ボランティアセンター

場 所：町民体育館内臨時事務所

受付時間：09:00～16:00

TEL - - - -

(受付用)：様式1ー様式4 (総務課)

災害ボランティア 様式1

受付	月 日
----	-----

個人用

ボランティア受付用紙

※項目を記入または該当するものを○で囲んでください。

フリガナ 氏名	性別	年齢	歳
〒_____	男・女	市区 町村	
自宅 住所	都府県	都府県	
連絡先	携帯電話	ボランティア 活動保険	加入済 未加入
緊急 連絡先	氏名	携 帯 電 話	
所有車の 活用につ いて	活動に使用してもよいですか？	車 種	
	はい / いいえ	バス・ワゴン・セダン・軽トラ	

※所有車での活動中の車禍事故に関するご自身が入力されている自動車保険で対応をお願いいたします。

技術や機 材につい て	ボランティア活動に携わる特殊な技術や資格、機材をお持ちの方はこちらにご記入ください。 例) 看護師、大工、震災ボランティア経験の有無、大型トラック、パワーショベル、高圧洗浄機など
-------------------	--

※こちらに記載されている個人情報については、南富良野町社会福祉協議会が南富良野町災害ボランティアセンターに関する業務及びボランティア活動保険加入に関する業務以外に利用いたしません。

※ボランティア登録受付は、ボランティア活動保険に加入していることが条件となります。

※ご不明な点は、南富良野町災害ボランティアセンターまでお尋ねください。



8月30日からの大雨による河川氾濫で被災した住宅の復旧作業は続いています。
これまで多くのボランティアのみならず、復旧作業をしていただいています。
まだまだ皆様のご協力が必要です。皆様のご協力をよろしくお願ひいたします。



～募集内容～

- ◆受付：8時～@町民体育館
- ◆作業時間：9時～16時頃
- ◆服装：汚れてもよい服装、着替え、帽子、タオル、ゴム手袋、長靴、雨具(雨天時)など
- ◆持ち物：昼食・飲み物 ※南富良野町内の飲食店・コンビニもご利用いただけます。
- ◆活動の参加にあたり：ボランティア活動保険への加入をお願いします。
(※お住いの社会福祉協議会で手続きを済ませていらして下さい。保険料4タイプ¥300)

問合せ先：南富良野町災害ボランティアセンター

◆HP: <http://hokkaidovc.jp/minamifurano>
◆TEL: _____ ◆e-mail: manpuvc@yahoo.co.jp

※受付時間：9時～16時 ご不明な点はお気軽にご連絡ください。

【様式2】（依頼票）

ボランティア依頼票



受付日時	平成29年 月 日	現地調査	済 ・ 未
フリガナ		性 別	男 ・ 女
氏 名			
電話番号	(携帯) (固定) (その他)	年 齢	
住 所			
被害状況	<input type="checkbox"/> 床上浸水 <input type="checkbox"/> 床下浸水 <input type="checkbox"/> その他 ()		
依頼内容	<input type="checkbox"/> 室内の片づけ (荷物の搬出・移動) <input type="checkbox"/> 室内の清掃 <input type="checkbox"/> 家周りの片づけ (流木や土砂等) <input type="checkbox"/> 被災家財の搬出 (処分するもの) <input type="checkbox"/> 荷造り <input type="checkbox"/> その他 ()		
世帯状況	<input type="checkbox"/> お一人暮らしの高齢者 <input type="checkbox"/> 高齢者夫婦世帯 <input type="checkbox"/> 障がい者のいる世帯 <input type="checkbox"/> 高齢者のいる世帯 <input type="checkbox"/> ひとり親世帯 <input type="checkbox"/> その他の世帯		
ご希望日	＊ボランティアの受け入れが可能な日にチェックを入れてください。 <input type="checkbox"/> 平日 <input type="checkbox"/> 土日・祝祭日 <input type="checkbox"/> その他希望日 (複数可) 第1希望 月 日 / 第2希望 月 日 / 第3希望 月 日		
センター 記入欄	ニーズ受付方法 <input type="checkbox"/> 直接来所 <input type="checkbox"/> 電話受付 <input type="checkbox"/> 訪 問 <input type="checkbox"/> その他 () 依頼票受付者 ()		

ボランティアセンターでは対応が難しい（出来ない）こと

- ☆ 水害で生じた被害以外に対応する活動 ☆ 家屋の解体や修繕
 - ☆ 車の運転（荷物の輸送やごみ処理施設等への災害ごみの搬出など）
 - ☆ 大きなブロック塀の破砕等 ☆ 屋根等の高所作業
- <全壊や大規模半壊、家屋流出处世帯はご相談ください。一度訪問させていただきます>

南富良野町災害ボランティアセンター／南富良野町社会福祉協議会

活動報告書【ボランティアリーダー記入欄】

日 時	平成28年 月 日 () () 午前 □ 午後 □
活動者	リーダー氏名 団体名 班名 TEL 活動人数 人
活動内容	<p>●活動の継続は必要ですか。 <input type="checkbox"/> 必要あり <input type="checkbox"/> 必要なし(その理由を下にお書きください) ↓ <input type="checkbox"/> 翌日午前の活動でも可 <input type="checkbox"/> 日程調整が必要 ※理由・残りの作業</p> <p>※一度の活動に参加できる人数</p> <p>例)更に必要な道具など 「住民の方が終わりとはいったけれど、まだ作業が残ってそう」など 「住民の方の健康状況が悪そうだ(食事を取れていない様子など)」</p>
センターへ伝えるべきこと	
センター記入欄	

(マッチング班)→(リーダー)→(受付班)→(マッチング班)→(総務班)
 災害ボランティア 様式B

活動要請受付No.

活動指示書兼報告書

日 時	平成28年 月 日 () () 午前 □ 午後 □
氏名	TEL 携帯
住所	南富良野町
事前アポ	月 日 アポ担当者
活動場所	<input type="checkbox"/> 住宅 <input type="checkbox"/> 庭 <input type="checkbox"/> その他 ()
活動内容	<input type="checkbox"/> 泥出し(家・庭) <input type="checkbox"/> ゴミ処理 <input type="checkbox"/> たたみ出し <input type="checkbox"/> 家周りの片づけ <input type="checkbox"/> 家具移動 <input type="checkbox"/> 室内清掃 <input type="checkbox"/> 庭の片づけ <input type="checkbox"/> 煙の片づけ <input type="checkbox"/> 消毒 () <input type="checkbox"/> その他 ()
活動内容	詳細:
活動予担者数	名
道具	スコップ 本 ブラシ 本 段ボール 箱 一輪車 台 ほうき 本 たわし 個 水切りワイパー 本 バケツ 個 フルーツ 枚 高圧洗浄機 台 その他 ()
緊急時連絡先(事故等が発生した場合) 南富良野町災害ボランティアセンター 総務班 電話 ■■■-■■■-■■■	
作業について(不在だったとき、作業内容がわからないとき、作業が完了だった場合) 南富良野町災害ボランティアセンター マッチング班 電話 ■■■-■■■-■■■	

指示されている活動が終了した際はボランティアセンターに連絡するか、一度センターにお戻りください

活動終了後、裏面の活動報告書への記入をお願いします



発行に寄せて

編集委員会



編集委員

南富良野町社会福祉協議会 常務理事	上 林 康 政
南富良野町社会福祉協議会 事務局長 (災害ボランティアセンター センター長)	佐々木 之 孝
南富良野町社会福祉協議会 主事	伊 賀 未 奈 (前列左)
災害ボランティアセンター 副センター長	内 田 誠 治 (後列左から2人目)
シューティングスタープロジェクト 代表 (Omoidori Project 及び情報発信メンバー)	西 村 勇 太 (後列右から2人目)
南富良野町地域おこし協力隊	服 部 理 沙 (前列中央)
認定 NPO 法人どんころ野外学校	金 村 孔 介 (後列左)

編集委員会事務局

一般社団法人 Wellbe Design 理事長	篠 原 辰 二 (後列右)
一般社団法人 Wellbe Design クリエイター	佐 藤 結 希 (前列右)

編集委員会実施状況

第1回編集委員会	2017年8月16日(水)	南富良野町保健福祉センターみなくる
第2回編集委員会	2017年9月29日(金)	南富良野町保健福祉センターみなくる
第3回編集委員会	2017年10月27日(金)	南富良野町保健福祉センターみなくる
第4回編集委員会	2017年12月8日(金)	南富良野町保健福祉センターみなくる
第5回編集委員会	2018年1月19日(金)	南富良野町保健福祉センターみなくる
第6回編集委員会	2018年2月22日(木)	南富良野町保健福祉センターみなくる
第7回編集委員会	2018年3月22日(木)	南富良野町保健福祉センターみなくる

編集後記

編集委員会事務局

一般社団法人 Wellbe Design 理事長 篠原辰二

日ごろ地域福祉の推進を目指すため、社会福祉協議会や福祉行政、民生委員児童委員等に対する活動を展開している当法人は、大規模災害発生時に災害ボランティア活動支援プロジェクト会議からの要請を受け、被災者に対するボランティアな支援活動への支援を行っています。台風第 10 号災害においても、災害発生当日より、十勝管内芽室町、清水町、新得町及び北海道社会福祉協議会に開設された災害ボランティアセンターへの支援を行い、南富良野町には、2017 年 5 月末日まで被災者支援活動のアドバイザーとして関わらせていただきました。

南富良野町災害ボランティアセンターの特徴は、地域や住民に対する強い思いと、住家のみならず農地や公共施設、周辺環境の整備に至る、様々な支援活動を生み出した柔軟性と行動力と言えます。資機材もなく、ボランティアの受け入れ準備が整わない中、住民への支援にいち早く取り組んだ内田氏やその動きに迅速な対応をした南富良野町役場、職場に大きな被害を受けたにも関わらず動き出した社会福祉協議会やどんころ野外学校、そのほか南富良野町に想いを寄せる有志が集い、結束して地元主体の災害ボランティアセンターの運営にあたりました。

本記録集は、こうした活動の実際を記録し、今後発生するかもしれない他の自治体や地域に伝え、各地で防災への取り組みが加速化し、災害時の支援活動が円滑に行われるようお願いを込めて作成したものです。ぜひお手に取ってお読みいただくと幸いです。

本記録集発行にあたり、記事提供や写真のご提供をいただいたみなさま、取材にご協力いただいたみなさま、何よりも助成をいただきました公益財団法人北海道新聞社会福祉振興基金に心より感謝申し上げます。

むすびに、人口 2,600 名の小さな南富良野町で発生した大きな災害は、人々の生活に大きな影響を与えましたが、住民相互のつながりの強さを力に、復興への歩みを続けています。ぜひ一度、そしてあらためて南富良野にお立ち寄りいただき、南富良野の「今」を感じていただくと幸いです。

[取材協力]

南富良野町のみなさま

災害ボランティア活動に参加していただいたみなさま

災害ボランティアセンターの運営を担っていただいたみなさま

[写真提供]

写真家 太田達也

南富良野町

[記事提供]

北海道新聞

2017（H29）年度北海道新聞社会福祉振興基金一般公募助成事業
南富良野町災害ボランティアセンター活動記録集

2018年3月22日発行

企画編集 南富良野町災害ボランティアセンター活動記録集編集委員会

発行 一般社団法人 Wellbe Design

〒004-0022 北海道札幌市厚別区厚別南2丁目7番28号

011-801-7450 / info@wellbedesign.jp / www.wellbedesign.jp

社会福祉法人南富良野町社会福祉協議会

〒079-2403 北海道空知郡南富良野町字幾寅708番地

0167-39-7711 / shakyo@nanpu-shakyo.jp / www.nanpu-shakyo.jp

発行責任者 篠原辰二

デザイン ナカムラサキ

この記録集は、公益財団法人北海道新聞社会福祉振興基金成を受けて発行しています。

